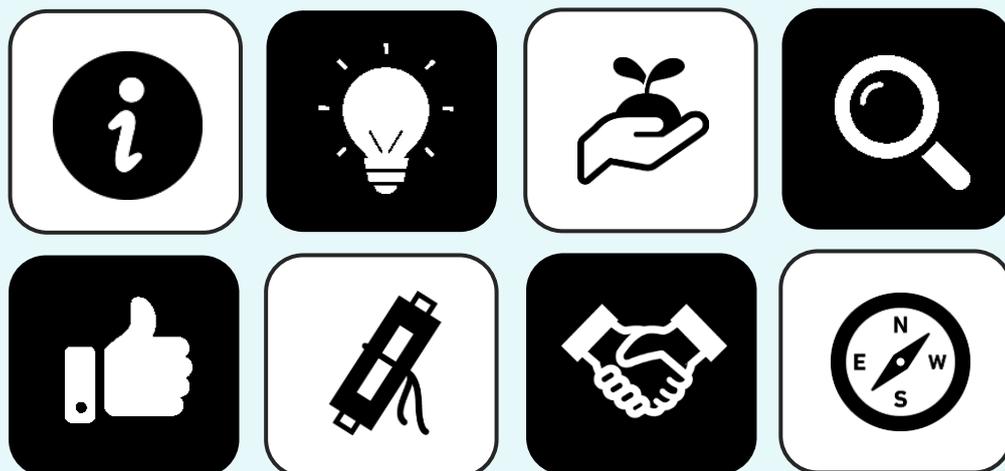




令和5年度

安曇野市 協働事業事例集



安曇野市 市民生活部 地域づくり課



1 協働事業事例集の趣旨・目的

近年、少子高齢化の進展、人口減少等、社会情勢が変化する中で、地域の課題や市民のニーズは多様化・複雑化しています。市民が安全・安心に、心豊かに暮らせる地域づくりを進めていくためには、市民や区など自治会、市民活動団体、企業、教育機関、行政等、特性の異なる主体同士が、お互いの特性の違いを認め合い、対等な関係の中で、それぞれの強みを生かし、弱みを補完し合う「協働」によるまちづくりが求められています。

そのような背景から、安曇野市では、平成 26 年 3 月に「安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」（以下、「協働推進計画」という。）を策定、また、平成 29 年 4 月には「安曇野市自治基本条例」の施行、平成 31 年 3 月に第 2 次協働推進計画の策定と、協働を進めるための仕組みづくりに努めております。さらに、令和 5 年度で計画期間が終了となる第 2 次協働推進計画にかわり、令和 6 年 3 月に第 3 次計画として、計画名称を改め「安曇野市つながりひろがる協働推進計画」を策定し、市民も行政も多様な皆さんがつながりを広げる機会の創出に取り組んでいきます。

この協働事業事例集では、令和 5 年度に各部局で協働事業として実施された事業の情報を収集し、掲載しています。「協働」することは目的ではなく、課題解決に向けた手段のひとつです。この事例集が、本市における協働推進の参考となり、それぞれの取り組みがより充実されることを期待して作成するものです。

2 対象とした協働事業

市民と行政がお互いの持つ特性を活かし、不足を補いながら、共に公共サービスの充実や市政の効率化に活かすなどの協働の視点で実施した事業。

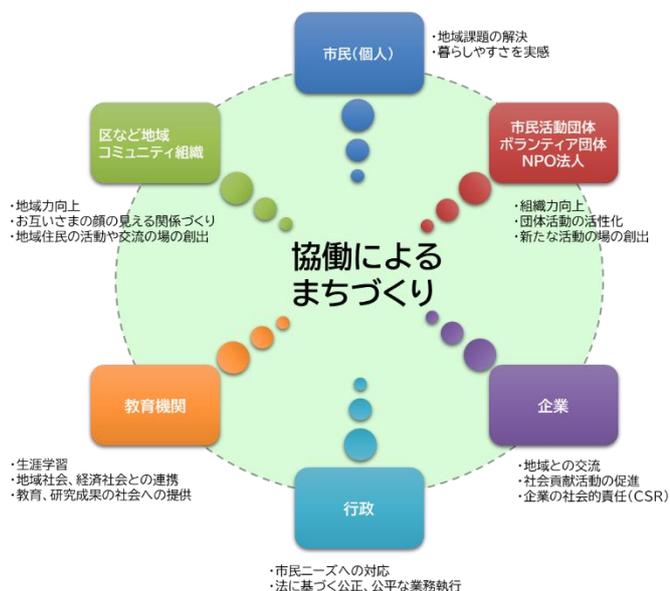
(1) 協働の形態

共催、実行委員会、事業協力（協定）

(2) 行政（市）と協働するパートナー

自主的に地域の課題解決に携わる法人、団体等（国、地方公共団体、独立行政法人を除く）

(例) 区（自治会）、PTA、企業、学校法人、社会福祉法人、医療法人、商工会議所・商工会、NPO、消防団、農業協同組合



令和5年度実施 個別協働事業（全61事業）

NO.	事業名	協働の相手方	事業担当課	頁	
1	福岡市東区との交流事業 「安曇野歴史サロン 安曇族の歴史ロマンと志賀島」	安曇誕生の系譜を語る会	政策経営課	2	
2	官民協働事業・イオン豊科店「わが街NAVI」	イオン豊科店、(株)サイネックス	秘書広報課	3	
3	男女共同参画週間 パネル展示	安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク	人権共生課	4	
4	共生社会づくり講座「LGBTと社会」			5	
5	国際女性デー パネル展示			6	
6	若年層の性暴力被害予防月間 パネル展示			7	
7	女性に対する暴力をなくす運動 パネル展示			8	
8	安曇野から考える人権展			安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク 松本人権擁護委員協議会安曇野部会	9
9	ハートフルな性教育講演会			安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク 安曇野こどもプラットフォーム	10
10	日本語deスピーチ大会	あづみの国際化ネットワーク	人権共生課	11	
11	あづみの国際DAY! 2023			12	
12	ダイバーシティ講座			13	
13	第2回安曇野市共生社会づくりフォーラム			14	
14	世界を知ろう、触れ合おう！インドネシア編	安曇野市国際交流協会	人権共生課	15	
15	世界を知ろう、触れ合おう！イギリス編			16	
16	ホンデリングデー			17	
17	安曇野市人権の集い	認定特定非営利活動法人長野犯罪被害者支援センター 安曇野市企業人権教育推進協議会 松本人権擁護委員協議会	人権共生課	18	
18	光城山1000人SAKURAプロジェクト	光城山1000人SAKURAプロジェクト		19	
19	ゆるーくつながる出会いの場（通称：ゆるつな）	ゆるつな運営チーム	地域づくり課	20	
20	あづみの市民活動フェスタ2023	市民活動フェスタ運営チーム		21	
21	第44回あづみ野祭り	第44回あづみ野祭り実行委員会		22	
22	アルプス花街道事業	アルプス花街道実行委員会		23	
23	ふるさと夏祭り	ふるさと夏祭り実行委員会		24	
24	信州ふるさとの道ふれあい事業（アダプトシステム）	岩原ひまわりクラブ		25	
25	安曇野明科あやめまつり	あやめまつり実行委員会		26	
26	安曇野環境フェア2023	安曇野環境フェア実行委員会	環境課	27	
27	不用食器リサイクル活動	安曇野市不用食器リサイクル実行委員会		28	
28	明科駅周辺まちあるき空き家・空き店舗見学会	明科駅周辺まちづくり委員会	移住定住推進課	29	
29	空家現地相談会	NEX-T安曇野		30	
30	安曇野玉ねぎ祭り	安曇野玉ねぎ祭り実行委員会参加団体（者）	農政課	31	
31	里山再生計画推進事業	市民、事業者	耕地林務課	32	
32	安曇野市穂高北穂高地区産業用地整備事業	(株)ヤマウラ、(株)d-ネクスト	商工労政課	33	
33	信州安曇野食の感謝祭	信州安曇野食の感謝祭実行委員会		34	
34	第40回早春賦まつり	早春賦まつり実行委員会	観光課	35	
35	信州安曇野ロゲイニング	信州安曇野ロゲイニング実行委員会		36	
36	第16回安曇野花火	安曇野花火実行委員会		37	
37	安曇野やさいスイーツプロジェクト	安曇野やさいスイーツプロジェクト		38	
38	安曇野 APPLE HALLOWEEN	JR東日本長野支社		39	
39	信州安曇野ハーフマラソン事業	信州安曇野ハーフマラソン実行委員会	スポーツ推進課	40	
40	安曇野市コミュニティスクール事業	地域住民、各種ボランティア団体等	学校教育課 生涯学習課	41	
41	令和6年 安曇野市二十歳の集い	令和6年安曇野市二十歳の集い実行委員会	生涯学習課	42	
42	安曇野市総合芸術展	安曇野市総合芸術展実行委員会		43	
43	第60回童謡祭り 第42回作詞作曲コンクール、第43回作詞作曲コンクール	童謡祭り実行委員会		44	
44	穂高納涼祭	穂高納涼祭実行委員、穂高商業高校		45	
45	穂高地域公民館長杯マレットゴルフ大会	穂高マレットゴルフ協会		46	
46	安曇野市穂高地域ゴルフ大会	穂高地域ゴルフクラブ		47	
47	穂高地域地区公民館対抗球技大会	穂高家庭婦人バレーボール協会 穂高壮年ソフトボール連盟 穂高ソフトバレーボールクラブ		48	
48	穂高文化祭	穂高文化協会		49	
49	三郷祭（三郷地域市民文化産業展及び菊花展）	三郷地域市民文化産業展実行委員会		50	
50	三郷祭（三郷地域市民運動会）	三郷地域市民運動会実行委員会		51	
51	三郷祭（三郷地域市民芸能発表会）	三郷地域市民芸能発表会実行委員会		52	
52	三郷祭（三郷地域ふれあいコンサート）	三郷地域ふれあいコンサート実行委員会		53	
53	第7回常念フェスティバル	常念フェスティバル実行委員会		54	
54	堀金のお宝発見講座	ふるさと堀金を楽しむ会		55	
55	いいまちサロン	明科いいまちつくろうかい！！	56		
56	安曇野市の歴史文化遺産の再発見事業	安曇野市の歴史文化遺産再発見事業実行委員会	文化課	57	
57	安曇野さんぽ市2023	安曇野さんぽ市実行委員会		58	
58	安曇野市ミュージアム活性化事業	安曇野市ミュージアム活性化事業実行委員会		59	
59	第32回信州安曇野薪能	信州安曇野薪能実行委員会		60	
60	安曇野文化刊行事業	安曇野文化刊行委員会		61	
61	第19回あづみの公園早春賦音楽祭	あづみの公園早春賦音楽祭実行委員会		62	

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		福岡市東区との交流事業 「安曇野歴史サロン 安曇族の歴史ロマンと志賀島」	 <p>安曇野歴史サロンでの対談の様子</p>
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇誕生の系譜を探る会	
	市側	政策部 政策経営課 企画担当	

【事業の概要】

取組の背景・課題	福岡市東区側から、安曇野市との交流のきっかけとなった「安曇族」に関する講演会を開きたいとの依頼があった。市単独では安曇族に関する情報を十分に提供できないため、「安曇誕生の系譜を探る会」との共催で開催することとした。		
事業の目的	友好交流都市・福岡市東区との交流を深める目的で開催した。		
成果目標	友好交流都市への興味を持つ人が増え、双方の交流活動の発展につなげる。		
実施場所	穂高交流学習センター 「みらい」	事業期間	令和5（2023）年8月26日（土）
事業の概要	「安曇族の歴史ロマンと志賀島」をテーマに、志賀海神社禰宜の阿曇幸興氏の講演と、阿曇氏と安曇誕生の系譜を探る会代表の百瀬新治氏との対談を行い、約200人が参加した。志賀島に関連する物産展を同時開催した。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	安曇野歴史サロン当日の運営
	相手側	安曇野歴史サロンにおける対談内容の設計、参加者募集、広報 など
	市側	東区側（区役所、志賀海神社）との連絡調整、施設予約、広報 など

【実施結果】

成果目標の達成状況	会場の定員いっぱいとなる約200人が参加する盛況ぶりだった。
協働による効果	専門的知識を有する「安曇誕生の系譜を探る会」と、関係先との連絡調整を担う市とが、それぞれの強みを活かし、「安曇族」をキーワードとした両自治体における交流のきっかけを多くの人に伝えることができた。
課題・改善点	友好都市との交流事業は継続して行うことに大きな意義があり、本事業で培った成果・課題を蓄積する工夫が必要である。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		官民協働事業・イオン豊科店 「わが街NAVI」
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力(協定) 3. 実行委員会 4. その他()
実施団体	相手側	イオン豊科店、(株)サイネックス
	市側	政策部 秘書広報課 秘書広報担当



デジタルサイネージ設置状況

【事業の概要】

取組の背景・課題	多様化する情報媒体を的確に利活用し、効果的かつ効率的に情報発信を行うことが求められている。		
事業の目的	市政に関する情報を広く、効果的に発信するため。		
成果目標	市の広報媒体として、費用負担なく活用ができ、市政情報をこれまで以上に周知できる。		
実施場所	イオン豊科店	事業期間	令和4年9月～
事業の概要	イオン豊科店に大型電子パネル（以降、デジタルサイネージ）を設置し、行政情報や施設からのお知らせを掲載する。設置・運用の費用は、広告収入により行う。設置・運営は、広告代理店の(株)サイネックス、行政情報の提供は市が行う。官民協働によるゼロ予算事業。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	店舗来客者に対する情報提供
	相手側	イオン豊科店：デジタルサイネージ設置に係る店舗内設置場所の利用提供 (株)サイネックス：デジタルサイネージの設置および広告の募集・掲載
	市側	市政情報等の掲載

【実施結果】

成果目標の達成状況	多くの人の目にとまる情報発信ツールとして、利活用することができた。
協働による効果	店舗来客者に対する情報提供に取り組むことができた。
課題・改善点	情報パネルでの動画について、伝わりやすく目をひく質の高い動画作成を行う必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		男女共同参画週間 パネル展示	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

展示の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	「男女共同参画」という言葉は浸透したが、「男女共同参画」が自分事として捉えにくく、「男女共同参画」アレルギーになっている人もいる。		
事業の目的	パネルを展示することで、来庁する市民に関心を持ってもらうため。		
成果目標	男女共同参画週間を知ってもらい、様々な分野で男女共同参画が必要であることを知ってもらう。		
実施場所	本庁舎 1F 東ロビー	事業期間	令和5年6月12日～30日
事業の概要	今年度は「男女共同参画×防災」をテーマにジェンダーの観点から防災を考えるバナー展示を通し、男女共同参画及び共生社会づくりの必要性を感じてもらい、興味・関心を持ってもらえるよう啓発する。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	展示
	相手側	各組織への伝達
	市側	事務（展示準備）

【実施結果】

成果目標の達成状況	来庁された市民の方へ男女共同参画や防災におけるジェンダー主流化を知ってもらうきっかけとなった。
協働による効果	男女共同参画に関する課題を共有することができ、地域での展示等へ活用ができた。
課題・改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・展示そのものを見てもらえる工夫が必要。 ・展示内容も、市民の方が興味を持ちやすく、わかりやすい内容にする。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称	共生社会づくり講座「LGBTと社会」		
協働の形態	①. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

講演会の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	パートナーシップ制度等、性の多様性に関する環境整備は少しずつ進んでいるものの、性の多様性に関する市民の理解は深まっていない。		
事業の目的	今年度から始まった「長野県パートナーシップ届出制度」に合わせ、住民の方に性の多様性に関する理解を深める機会として講座を開催する。		
成果目標	多様な性があることを理解してもらう。		
実施場所	市役所 4階 大会議室	事業期間	令和5年4月25日
事業の概要	弁護士で性的マイノリティ団体の顧問でもある講師から、多様な性や性的マイノリティの置かれている現状等を講演してもらい、自分に何ができるのかを考えるきっかけとする。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	当日の運営
	相手側	地域への広報
	市側	事務（事前準備、広報等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	多様な性に関する理解を深められた。
協働による効果	関心の薄いと思われる高年齢層の参加者の参加が多く、効果的な講座となった。
課題・改善点	事前のすり合わせ等、より綿密な打ち合わせを心がけ、スムーズな運営となるよう改善が必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		国際女性デー パネル展示	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

展示の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	毎年、3月8日は国連が定めた「国際女性デー」であり、社会的、経済的、文化的、政治的な女性の権利と国際平和を祝う日、男女平等を加速させる日とされている。		
事業の目的	国際女性デーをきっかけにジェンダー平等について関心をもってもらう。		
成果目標	国際女性デーを知ってもらい、ジェンダー平等の意識を高める。		
実施場所	本庁舎 1階西ロビー	事業期間	令和6年3月4日～29日
事業の概要	国際女性デーに合わせ、女性参政権をテーマに地域の女性活動家等に関するバナー展示を行う。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	パネル展の準備、片づけ
	相手側	地域への広報、活用
	市側	事務（バナー作成等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	国際女性デーやジェンダー平等に関する認知が広まった
協働による効果	より多くの方に展示を見てもらうことができ、啓発を行うことができた
課題・改善点	啓発を継続し、より行動変容につながる内容の検討が必要

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		若年層の性暴力被害予防月間 パネル展示	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

展示の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	毎年4月が「若年層の性暴力被害予防月間」となっており、新生活が始まるこの時期に若年層が被害に遭いやすいため、被害予防の意識を高める必要がある。		
事業の目的	市民に対して性犯罪・性暴力の防止に関心をもってもらう。		
成果目標	若年層の性暴力被害等を知ってもらい、性犯罪・性暴力の防止に対する意識を高める。		
実施場所	本庁舎 1階東ロビー	事業期間	令和5年11月10日～24日
事業の概要	パネル展示を通じて、若年層の性暴力被害予防を図る。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	パネル展の準備、片づけ
	相手側	地域への広報、活用
	市側	事務（バナー作成等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	若年層の性暴力被害予防に関する認知が広まった。
協働による効果	より多くの方に展示を見てもらうことができ、啓発を行うことができた。
課題・改善点	啓発を継続し、より行動変容につながる内容の検討が必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		女性に対する暴力をなくす運動 パネル展示	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

展示の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	例年11月12日～25日が「女性に対する暴力をなくす運動」期間であるが、認知度が低く、関心も高まっていない。		
事業の目的	市民に対して性犯罪・性暴力の防止に関心をもってもらう。		
成果目標	女性に対する暴力をなくす運動を知ってもらい、市民の性犯罪・性暴力の防止に対する意識を高める。		
実施場所	本庁舎 1階東ロビー	事業期間	令和5年11月10日～24日
事業の概要	パネル展示を通じて、女性に対する暴力をなくす運動の周知を図る。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	パネル展の準備、片づけ
	相手側	地域への広報、活用
	市側	事務（バナー作成等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	「女性に対する暴力をなくす運動」及びパープルリボン運動の認知が広まった。
協働による効果	より多くの方に展示を見てもらうことができ、啓発を行うことができた。
課題・改善点	啓発を継続し、より行動変容につながる内容の検討が必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野から考える人権展	
協働の形態		①. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	・松本人権擁護委員協議会安曇野部会 ・安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

安曇野から考える人権展の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	今年度スタートした「安曇野市多様性を尊重し合う共生づくり計画」や「共生社会」への理解がなかなか進まず、市民への理解を深める必要がある。		
事業の目的	人権啓発の展示を通して、人権尊重の意識を啓発し、すべての人の人権が尊重されるまちづくりに資することを目的とする。		
成果目標	多文化共生や男女共同参画、犯罪被害者支援に対し関心を持ってもらう。		
実施場所	貞享義民記念館	事業期間	令和5年12月6日～23日
事業の概要	第18回 長野県外国人県民による写真展示会「写信州」展や多文化共生パネル、男女共同参画パネル、犯罪被害者支援などの展示を行い、人権に関する関心を持ってもらう。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	周知
	相手側	展示用品の援助等
	市側	事務（展示パネル作成、設営等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	来館者に人権について考えてもらうきっかけとなった。
協働による効果	事業をより効果的に実施できた。
課題・改善点	身近な題材を取り上げ、より興味を持ってもらえる内容を検討する。 誰もが活躍できる共生社会にするため、各個人の行動変容を促す展示を検討する。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		ハートフルな性教育講演会		
協働の形態		①. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野市ジェンダー平等推進ネットワーク 安曇野子どもプラットフォーム		
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係		

講演会の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	本来、性の自己決定権は、女性にも子どもにもあるべきものであるが、「性」や「性教育」は敬遠されがちである。		
事業の目的	11月12日～25日の「女性に対する暴力をなくす運動」期間に合わせ、包括的セクシュアリティ教育の視点から、子どもや子どもを取り巻く大人が自分自身を大切に、他者を尊重すること学ぶ機会とする。		
成果目標	家庭内で安心して性について話してもらえる環境づくりを学んでもらう。		
実施場所	豊科交流学習センター「きぼう」多目的交流ホール	事業期間	令和5年11月11日～12日
事業の概要	講演やワークショップ等を通じて、自分や相手を大切に思う心や、自分の意思、感情等を伝えることを学ぶ機会とする。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	当日の運営
	相手側	地域への広報、講師への対応
	市側	事務（事前準備、広報等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	性が恥ずかしいものではないことを学び、家庭内から安心して性について話せる環境づくりの大切さを知るきっかけづくりとなった。
協働による効果	他の講演会と比較し、若い年齢層の方々に参加してもらえた。
課題・改善点	事前のすり合わせ等、より綿密な打ち合わせを心がけ、スムーズな運営となるよう改善が必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		日本語 de スピーチ大会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あづみの国際化ネットワーク	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

スピーチをした方々

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、令和5年4月1日現在、1,436人の外国籍の方が暮らしており、今後も外国籍市民数の増加が見込まれる。文化・習慣等の違いを知り、外国籍市民等と日本国籍市民が相互に理解し、受け入れる意識の醸成が必要である。		
事業の目的	外国籍市民等への理解促進。		
成果目標	協働による多文化共生の意識づくり。		
実施場所	穂高交流学習センター みらい	事業期間	令和5年7月30日
事業の概要	地域に暮らす外国籍市民等に暮らしの中での想い等を発表していただくとともに、聴講者からの質問を受ける「対話会」を行う。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	チラシの設置、多文化共生パネル展示等と併せた周知、会場準備及び片付け
	相手側	発表者の募集、原稿作成の支援
	市側	配布資料等準備等

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	多くの方に来場いただけるよう、会場を市役所本庁舎から穂高交流学習センターみらいに変更したことで、より効果的に実施できた。
課題・改善点	継続して実施し、多様な文化を受け入れる意識の醸成を図る。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		あづみの国際 DAY！2023	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あづみの国際化ネットワーク	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

物品販売ブースの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、令和5年4月1日現在、1,436人の外国籍の方が暮らしており、今後も外国籍市民数の増加が見込まれる。文化・習慣等の違いを知り、外国籍市民等と日本国籍市民が相互に理解し、受け入れる意識の醸成が必要である。		
事業の目的	外国籍市民を含む参加市民に、楽しみながら外国文化に触れていただき、国際交流・協力、多文化共生に対する理解を深める機会を提供する。		
成果目標	協働による多文化共生の意識づくり。		
実施場所	穂高交流学习センター みらい	事業期間	令和5年10月29日
事業の概要	物品・食品販売、ワークショップ、文化紹介等 ステージ出演（民族舞踊の発表等）		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	出展・出演者募集、事前説明会、会場準備及び片付け
	相手側	司会・進行等
	市側	配布資料作成等

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	多くの方に来場いただけるよう、会場を「穂高会館」から「穂高交流学习センターみらい」に変更したことで、より効果的に実施できた。
課題・改善点	継続して実施し、多様な文化を受け入れる意識の醸成を図る。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		ダイバーシティ講座	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あづみの国際化ネットワーク	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

講座の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、令和5年4月1日現在、1,436人の外国籍の方が暮らしており、今後も外国籍市民数の増加が見込まれる。文化・習慣等の違いを知り、外国籍市民等と日本国籍市民が相互に理解し、受け入れる意識の醸成が必要である。		
事業の目的	日本での生活に必要なマナーについて学び、コミュニケーションの充実を図る。		
成果目標	協働による学びとコミュニケーションの充実。		
実施場所	安曇野市役所本庁舎4階 大会議室	事業期間	令和6年1月14日
事業の概要	外国籍市民等がマナーとそのポイントについて実践を交えながら学ぶ。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	参加者募集、会場準備、片付け
	相手側	司会、進行
	市側	配布資料作成等

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	事業を効果的に実施できた。
課題・改善点	今回のような外国籍市民等が日本のマナーを学ぶ講座だけでなく、参加者や日本国籍市民が世界のマナーや日本とのちがいを知ることができる内容にすることで、より多様な文化を受け入れる意識の醸成を図ることができる。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第2回安曇野市共生社会づくりフォーラム	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市共生社会づくりフォーラム 実行委員会	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

フォーラム当日の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	今年度スタートした「安曇野市多様性を尊重し合う共生づくり計画」や「共生社会」への理解がなかなか進んでおらず、「共生社会」について市民により一層の関心を持ってもらう必要がある。		
事業の目的	年齢・性別・国籍・障害の有無等に関わらず、誰もが個性と能力を発揮し、活躍する共生社会の実現のため。また、共生社会づくり計画策定の機運醸成のため。		
成果目標	共生社会について、自分事として考えてもらうきっかけづくりとする。		
実施場所	市役所4階大会議室	事業期間	令和5年8月5日
事業の概要	講演やワークショップ等を通じ、「共生社会」がどのようなものか、自分に何ができるのかなどを考えるきっかけとする。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	フォーラムの実施
	相手側	当日の準備、運営
	市側	事務（実行委員会事務局）

【実施結果】

成果目標の達成状況	共生社会づくりのために自分に何ができるかを考えるきっかけとなった。
協働による効果	関係団体の意識づくりにつながった。
課題・改善点	共生社会づくりという広いテーマのため、自分事にできる切り口で、啓発を続けていくことが必要。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		世界を知ろう、触れ合おう！ インドネシア編	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市国際交流協会	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

講座の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、令和5年4月1日現在、1,436人の外国籍の方が暮らしており、今後も外国籍市民数の増加が見込まれる。文化・習慣等の違いを知り、外国籍市民等と日本国籍市民が相互に理解し、受け入れる意識の醸成が必要である。		
事業の目的	外国籍市民等を講師とする体験型の講座を実施し、多文化共生の理解促進を図る。		
成果目標	協働による多文化共生の意識づくり。		
実施場所	三郷公民館	事業期間	令和5年8月27日
事業の概要	インドネシアの文化等の紹介 伝統菓子「オンデオンデ」の調理		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	広報、会場準備及び片付け
	相手側	受付、司会進行等
	市側	資料作成、必要物品の準備等

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	事業をより効果的に実施できた。
課題・改善点	親子で参加できる体験型の講座として、国やテーマを変えて継続的に取り組む。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		世界を知ろう、触れ合おう！イギリス編	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市国際交流協会	
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係	

講座の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、令和5年4月1日現在、1,436人の外国籍の方が暮らしており、今後も外国籍市民数の増加が見込まれる。文化・習慣等の違いを知り、外国籍市民等と日本国籍市民が相互に理解し、受け入れる意識の醸成が必要である。		
事業の目的	外国籍市民等を講師とする講座を実施し、多文化共生の理解促進を図る。		
成果目標	協働による多文化共生の意識づくり。		
実施場所	三郷公民館	事業期間	令和6年2月4日
事業の概要	イギリスの自然や文化等の紹介。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	講師打合せ、広報、会場準備及び片付け
	相手側	講師手配、受付、司会進行
	市側	必要物品の準備等

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	事業をより効果的に実施できた。
課題・改善点	親子で参加できる体験型の講座として、国やテーマを変えて継続的に取り組む。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		ホンデリングデー		
協働の形態		①. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	認定特定非営利活動法人 長野犯罪被害者支援センター		
	市側	政策部 人権共生課 人権共生係		

本等の受付

【事業の概要】

取組の背景・課題	犯罪被害者支援について市民が直接関わり、取り組みを知ってもらう機会であり、また、長野県安曇野警察署及び、松本人権擁護委員協議会安曇野部会、安曇野地区保護司会が市とともに共催となることで広く犯罪被害者支援につなげる。		
事業の目的	継続的な実施により、市民の犯罪被害者支援への理解や協力の促進を目指す。		
成果目標	犯罪被害者支援に資すること。		
実施場所	市役所本庁舎東ロビー	事業期間	令和5年11月24日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・本、CD/DVD、ゲームソフト等の回収。 ・リユース本による募金の受付 		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	内容の検討、会場準備及び片付け。
	相手側	集まった本等のとりまとめ。
	市側	プレスリリース、広報誌、ツイッターの活用による市民への周知。当日受付の協力。1月31日までの寄付の受付。

【実施結果】

成果目標の達成状況	本・CD・DVD・ゲームソフト 2662点、寄付金 2,308円 が集まった。 (ホンデリングデー当日分のみ)
協働による効果	市が主体的に広報を行うことで広く市民に周知することができる。
課題・改善点	今年度は新聞等への掲載により多くの寄付を集めることができた。また、安曇野警察署の協力のもとライポ君の参加が実現したが、子どもや若年層の来庁が少ないと感じている。来年度は若年層への啓発をどのように行うか、効果的に周知を図れたらと考える。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		令和5年度 安曇野市人権のつどい	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市企業人権教育推進協議会 松本人権擁護委員協議会	
	市側	人権共生課、生涯学習課、学校教育課	

人権作文表彰

【事業の概要】

取組の背景・課題	法務省が定める毎年12月4日から10日の「人権週間」に合わせて重点的な啓発活動を実施し、人権尊重意識の普及を図る。		
事業の目的	市民等の人権尊重意識の普及。		
成果目標	協働による人権尊重の意識づくり。		
実施場所	豊科公民館ホール	事業期間	令和5年12月2日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・講演（講師：湯本晴彦さん） ・第42回全国中学生人権作文コンテスト長野県大会松本地区予選市内入選者の表彰及び作文発表 ・人権デザインプロジェクトポスター・安曇野市の人権に関する資料等の展示 		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	参加者募集、会場準備及び片付け
	相手側	人権啓発イベント等での周知、司会進行
	市側	講師手配、広報ポスター・チラシの作成、進行シナリオ等の作成

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	企業人権啓発講演会を兼ねた形での初の開催となり、市民、企業、関係団体等へ広く周知することができ、効果的に実施できた。
課題・改善点	広報を早い時期から行い、より多くの方へ周知する。 継続して実施し、人権尊重意識のさらなる普及を図る。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進担当	

プロジェクトメンバーによる桜の植栽の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	観光の名所として知られる光城山の桜は、麓から山頂まで徐々に開花する様子が「昇り龍」に例えられ、地域に親しまれている。しかし、近年老木化が進み、早期の植え替えが課題となっていた。課題解決を図るためには、市民及び市が協働で取り組む必要があり、平成 26 年度に光城山の所有者や地元区、NPO と市にて、「光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト」を設立した。		
事業の目的	市民と市が協働で桜の植栽を進めるとともに、光城山及び周辺地域一体は、豊かな自然環境や城山としての歴史・文化など多くの魅力があるため、市民へ広く発信し、市の一体感の醸成を図ることを目的とする。		
成果目標	「昇り龍」の維持に向けた桜の植栽と光城山の魅力発信を行う。		
実施場所	光城山一帯	事業期間	令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日
事業の概要	令和 5 年度は、桜の植栽場所の選定、資材運搬及び植栽場所の掘削作業を経て、10/22 に光城山中腹に 8 本の桜を植樹した。また、プロジェクトや光城山の魅力を発信するため、地元農家による軽トラ市（4 回）の開催するほか、光城山周辺の旧集落（白牧・子ノ神・蟬・麻生）の歴史を学ぶ機会として、11/12 に歴史・文化講座を開催した。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	植樹に向けた各種検討、その他各事業の企画運営 など
	相手側	植栽事業準備作業、鹿対策防護柵の作成、桜の育成管理 など
	市側	予算の執行、事業の進捗管理、保険加入、植樹参加者のとりまとめ など

【実施結果】

成果目標の達成状況	8 本の桜を新たに植栽する他、軽トラ市や講座により地域の魅力を発信した。
協働による効果	双方が主体的に役割を担い合い、各種事業を実施し、成果を達成することができた。
課題・改善点	植栽した桜を生育管理するための体制づくりについて、双方で協議をすすめる必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		ゆるーくつながる出会いの場 (通称 ゆるつな)	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力 3. 実行委員会 4. その他 ()	
実施団体	相手側	ゆるつな運営チーム	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進担当	

ゆるつな茶話会での集合写真

【事業の概要】

取組の背景・課題	市民団体同士、団体と市民が気軽に交流し、つながりを生み出す場として令和3年度より実施。		
事業の目的	市民活動に取り組む方や何か活動を始めたい方等様々な人が気楽に集まりゆるくつながることで、情報交換や連携のきっかけをつくる。		
成果目標	交流の場を作り、活動団体同士の連携を生み出すこと。		
実施場所	安曇野市役所 各地域公民館	事業期間	令和5年5月～令和6年2月
事業の概要	市民の希望者を募り参加するゆるつな運営チームで企画・運営を行う。設定したテーマに沿った企画を行い実施する「ゆるつな」を年4回実施。特設テーマは定めず集まった人同士で自由に話ながら情報交換できる場である「ゆるつな茶話会」を年5回実施。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	企画内容検討、当日の運営全般、振り返り、チラシの配布
	相手側	参加者呼び込み
	市側	会場・必要機材の準備、ホームページ等への掲載、チラシの作成・配布

【実施結果】

成果目標の達成状況	参加者同士でコラボ企画が立ち上がる等、新たな活動につながった。
協働による効果	市民の柔軟なアイデアを活かした企画を実施することができた。市民によるクチコミやSNSの発信による効果が高く、新規参加者やリピーターが増えたため、幅広い分野の人が集まり連携するきっかけとなった。
課題・改善点	運営チームのメンバーが固定化されており、新しいメンバーをどのように増やすことが課題。また企画や当日運営に向けた役割分担を明確にし、負担なくできる仕組みを構築する必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		あづみの市民活動フェスタ 2023	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力 3. 実行委員会 4. その他()	
実施団体	相手側	市民活動フェスタ運営チーム	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進担当	

出展団体と運営チームの皆さん

【事業の概要】

取組の背景・課題	市民活動について広く市民に周知するとともに、団体同士の交流の機会をつくるため、令和2年度から実施。		
事業の目的	広く市民が市民活動や協働のまちづくりについて知り、参加するきっかけとするため。		
成果目標	市内で活動する団体が効果的に PR するために、運営チームで企画しフェスタを実施する。		
実施場所	穂高交流学習センター みらい	事業期間	令和5年9月30日
事業の概要	希望する有志の市民で構成される運営チームで企画立案から当日運営まで行う。令和5年度は「fun!fun!fun!たのしんでつながろう！」をテーマに実施。34 団体が参加し、ブース出展やステージ発表、パネル展示で日頃の活動を PR した。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	企画内容検討、当日の運営全般
	相手側	広報活動・チラシ作成
	市側	出展団体とりまとめ、会場確保、櫃用機材の準備、ホームページ等への掲載 チラシの配布

【実施結果】

成果目標の達成状況	34 団体が出展し、ブース出展、ステージ発表、パネル展示を通じ各団体の活動を多くの市民に PR することができた。
協働による効果	市民のスキルを活かしたチラシづくりを始め、柔軟なアイデアを取り入れ実施することができた。
課題・改善点	運営チームのメンバーが固定化されており、新しいメンバーをいかに増やすかが課題。また企画や当日運営に向けた役割分担を明確にし、負担なくできる仕組みを構築する必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第 44 回あづみ野祭り	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	第 44 回あづみ野祭り実行委員会	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進担当	

第 44 回あづみ野祭り当日の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	昭和 50 年代ごろから、夏に各区で行われていた盆踊りの活気がなくなり、その状況を憂いた当時の豊科町長の呼びかけで、あづみ野祭り実行委員会が組織され、それ以来、夏の風物詩として市民に親しまれている。		
事業の目的	あづみ野祭りをとおして市民の連帯感と「心のふるさと」づくりに努め、観光の促進と文化厚生の発展に資し、かつ、産業経済の進展に寄与すること。		
成果目標	地元住民の交流機会、特に子どもたちが楽しみにする伝統行事の体験機会とするため、踊りの伝承を目的にあづみ野祭りを 4 年ぶりに開催する。		
実施場所	国道 147 号(新田交差点⇔成相交差点)及び駅前通り(市川歯科医院交差点⇔八十二銀行豊科支店交差点)	事業期間	令和 5 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 31 日 【事業実施日： 令和 5 年 7 月 29 日（土）】
事業の概要	7 月の最終土曜日に国道 147 号線と駅前通りを会場として行う。地区公民館や企業などが踊り連として参加し、あづみ野ばやし踊りを楽しむ。当日の踊り参加者等に向け踊りの練習会を企画し、伝統文化の継承を行う。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	当日の運営
	相手側	あづみ野祭りの企画立案、交通防災対策の検討
	市側	補助金の交付、会議や踊りの練習会場等の手配

【実施結果】

成果目標の達成状況	当日は来場者約 20,000 人、踊り連 34 連（約 2,300 人）が参加し、4 年ぶりの開催が実現した。多くの公民館や企業が踊りに参加し、伝統行事の体験機会とすることができた。
協働による効果	お互いの特性を活かした運営により、上記の成果をあげることができた。
課題・改善点	商店街のにぎわいが衰退している現状があるため、お祭りの会場の見直し等、協議を進めていく必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		アルプス花街道事業	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	アルプス花街道実行委員会	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進担当	

高校との協働による看板作製に係るお披露目

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野を訪れる皆さんを気持ちよくお迎えしようという機運が長野冬季五輪を機に高まり、広く市民に参加を募り、旧豊科 IC（安曇野 IC）付近の沿道に花を植える活動が始まった。現在は、市内全域に活動が広がっている。		
事業の目的	住民の創意工夫による美しい景観の形成により、安曇野へ訪れる人々を歓迎するとともに、活動を通じた絆や生きがいづくり等による地域コミュニティの形成に寄与することを目的とする。		
成果目標	マリーゴールドの植栽及び除草等の管理により沿道の景観美化を維持する		
実施場所	市内9か所の沿道（県道柏矢町田沢停車場線ほか）及び市シニアクラブ連合会活動区画	事業期間	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日
事業の概要	毎年参加を希望する個人・団体で実行委員会を構成し、市内9か所の沿道等でマリーゴールドの植栽及び除草等の管理を行い、景観形成に努める。一部の区画では、県、団体、市の三者でアダプトシステム協定を締結し、実施している。また、今年度は花街道のPRとして魅力ある看板を作るため、県内高校（穂高商業、南安曇農業、木曽青峰）と協力し作製した。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	マリーゴールドの植栽等沿道管理
	相手側	実行委員会の運営
	市側	委託料の支払、参加団体の取りまとめ、広報、事務局の補佐等

【実施結果】

成果目標の達成状況	66 団体（1,210 名）及び市シニアクラブ連合会 25 団体（801 名）の参加により、沿道の景観美化に努めることができた。
協働による効果	市民と行政が目的を共有し、多くの団体等の主体的な参加により安曇野市の景観形成に取り組むことができた。
課題・改善点	参加団体数が減少しており、景観美化が行き届いていない区画がある。新たな担い手の発掘や区画の見直し、管理体制に工夫が必要である。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		ふるさと夏祭り	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	ふるさと夏祭り実行委員会	
	市側	市民生活部 地域づくり課 三郷地域担当	

花火打上げ

【事業の概要】

取組の背景・課題	旧三郷村の昭和 61 年から実行委員会主催によって開催されている。多くの市民により親しまれ夏の恒例行事として定着している。		
事業の目的	市民相互の交流と連帯感を高め、ふるさと意識の醸成と地域振興を目的としている。		
成果目標	夏祭りの開催により、幅広い世代による交流とふるさとへの愛着を高め、地域の活性化と振興を図る。		
実施場所	三郷文化公園周辺	事業期間	令和 5 年 8 月 11 日
事業の概要	各団体が構成する実行委員会が主体となり、出店、ステージ発表、抽選会や打ち上げ花火など多様なイベントにより祭りを盛り上げている。寄付金や協賛金、補助金で運営され地域を挙げてのイベントとなっている。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	企画、運営、会場準備及び片付け
	相手側	寄付金・協賛金の確保、各関係機関への連絡調整、備品の整備
	市側	補助金の交付、会場確保、広報、看板準備

【実施結果】

成果目標の達成状況	例年に比べ多くの来場者で賑わった。住民同士の親睦を深めるとともに地域活性化の役割を果たしている。
協働による効果	市、商工会、区、学校などそれぞれが主体的に取り組み、円滑な祭りの運営が図られた。
課題・改善点	安全対策等に係る費用の増額に対し、安定的な収入を確保する必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		信州ふるさとの道ふれあい事業 (アダプトシステム)	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力(協定) 3. 実行委員会 4. その他 ()	
実施団体	相手側	岩原ひまわりクラブ	
	市側	市民生活部地域づくり課堀金地域担当	

作業の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	美化活動を通して子どもからお年寄り並びに事業所までが共に協力、交流をしながら、住みよい・美しい岩原区を作り上げ、地域活性化を図るために活動が始まる。平成25年7月2日に岩原ひまわりクラブ・市・安曇野建設事務所で3者協定を結ぶ。		
事業の目的	長野県が管理する道路において、地域住民が主体で行う道路の美化活動を行政が支援し、生活空間の一部である道路への愛着心を深めていただき、地域環境の向上を図る。		
成果目標	花の植栽や美化清掃作業等により、活動区間を良好な環境に保つ。		
実施場所	主要地方道塩尻鍋割穂高線 (堀金烏川(岩原)地区)	事業期間	5月～11月
事業の概要	岩原ひまわりクラブは、地域住民と協力し、歩道及び歩道に設置された植樹帯等に花などを植え、良好な地域環境の保持に努める。市は、岩原ひまわりクラブ及び建設事務所との連絡調整を行うとともに、岩原ひまわりクラブが収集したゴミの処理に協力する。建設事務所は、活動区間に団体名等を記載した表示板を設置するとともに、岩原ひまわりクラブの希望により、必要な清掃用具、材料等を貸与又は支給する。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	なし
	相手側	歩道及び歩道に設置された植樹帯等の美化清掃作業
	市側	ゴミ処理

【実施結果】

成果目標の達成状況	活動区間の美化のため、各々の役割分担により、花の植栽等を実施した。
協働による効果	道路の美化と地域環境の向上
課題・改善点	花の管理の省力化、クラブ員高齢化による後継クラブ員の確保。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野明科あやめまつり	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） ③. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あやめまつり実行委員会	
	市側	市民生活部 地域づくり課 明科地域担当	

2023あやめまつりフォトコンテスト
最優秀賞作品「初夏の風物詩」

【事業の概要】

取組の背景・課題	昭和 60 年（1985 年）旧明科町が町制施行 30 周年記念事業として開催。平成 5 年にはあやめ公園が完成し、あやめの栽培を通じた地域づくりを続けている。3 年に一度の株分けなど、花の管理が課題である。		
事業の目的	水郷明科のあやめの魅力を広く伝え、永く後世に残し、あやめまつりを通して人と人との和を広げるとともに、地域の絆を深め、魅力的な地域づくりをしていく。		
成果目標	市民相互の交流促進と賑わいを創出し、地域の活性化を図る。		
実施場所	あやめ公園・龍門淵公園ほか明科地域一円	事業期間	毎年 6 月中旬
事業の概要	雄大な北アルプスを背景に咲く花菖蒲と交流を楽しむイベントとして、花菖蒲の開花時期に合わせて 6 月中旬の 2 日間、あやめ公園及び龍門淵公園を主会場に開催する。開催に先立ち、実行委員、地域住民、地元高校生が、あやめ公園の清掃活動を行う。特設ステージでのイベントに加え、ラフティング体験、にじますのつかみどり、深緑ウォーキング、芸能発表会及びフォトコンテストを実施する。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	あやめ公園の清掃活動、事前準備、安曇野明科あやめまつり催事運営
	相手側	催事企画・運営、出演者・出店者調整、会計事務
	市側	事務局（会議開催・資料作成、届出・申請事務、各種調整）、補助金交付事務

【実施結果】

成果目標の達成状況	約 1 万人の来場者で賑わった。世代を超え市民相互の交流促進につながった。
協働による効果	地域住民、地域団体、地元高校生等が中心的な役割を担い催事を開催できた。
課題・改善点	来場者の交通誘導及び自主財源の確保が課題である。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野環境フェア 2023		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野環境フェア実行委員会		
	市側	市民生活部 環境課 環境政策担当		

安曇野環境フェア 2023 会場の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市環境基本計画策定を機に、計画推進の第一歩として安曇野市内外で環境に関する活動を展開されている皆さんの活動紹介の場を設けたい。		
事業の目的	フェア開催により、市環境基本計画で定められた取り組みを広く紹介するとともに、出展者と来場者の交流を深め、これまで参加していなかった人も巻き込みながら、つながりの環を広げていくこと。		
成果目標	参加者数 2,000 人		
実施場所	堀金総合体育館	事業期間	令和 5 年 10 月 7 日 ～令和 5 年 10 月 8 日
事業の概要	環境審議会委員や安曇野環境市民ネットワークをはじめとする環境活動に勤しむ市民団体等とともに実行委員会を設立し、フェアの企画・立案から、準備・広報・運営まで協力しながら進めている。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	企画立案・実施、実行委員会の開催、会場準備、当日運営
	相手側	実行委員会への出席、ポスター・チラシ配布
	市側	予算執行（市一般会計）、出展者募集・対応、後援申請、広報

【実施結果】

成果目標の達成状況	参加者数 1,800 人となり、多くの来場者が環境への取組を学べた。
協働による効果	環境への取組を通じ、参加者・実行委員・行政の交流がはかれた。
課題・改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実行委員の主体的な参加 ・ 前例にとられない柔軟な企画・運営 ・ 予算執行（市一般会計）にかかる実行委員の理解

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		不用食器リサイクル活動		中止のため写真無し
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野市不用食器リサイクル実行委員会		
	市側	市民生活部 環境課 資源循環推進担当		

【事業の概要】

取組の背景・課題	一般家庭から排出される食器は不燃ごみとして埋め立て処理しているが、ごみの減量化・循環型社会形成の観点から、食器の再利用(リユース)や再資源化(リサイクル)等を推進することより、埋め立て処理量を減らすことが求められている。		
事業の目的	家庭で不用となった食器を再利用及び再資源化することにより、ごみの減量を図り、循環型社会の形成を促進する。		
成果目標	市民と協働で不用食器の回収を行って再利用(リユース)の場を提供し、ごみの減量化と資源の有効活用につなげる。		
実施場所	①県民豊科運動広場 駐車場（不用食器回収） ②堀金総合体育館 （もったいない市）	事業期間	2023年4月1日～2024年3月31日
事業の概要	2023年10月1日(日)、雨天のため中止。予備日は設けていなかったため、今年度の事業は実施していない。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	事前準備、当日の会場準備、あと片付け 等
	相手側	不用食器回収事業の計画立案、事前準備、実行委員の招集と連絡、当日の運営（来場者の検温、場内誘導、受付、不用食器の仕分け、積み込み、など）等
	市側	回収場所や保管場所の提供、回収事業に使用する物品の貸し出し（机、いす、コンテナ等）、回収した食器の積み込みと荷下ろし、車両運搬、一時保管、再資源化処理業者への食器の運搬、再資源化処理にかかる費用負担、住民への広報 等

【実施結果】

成果目標の達成状況	
協働による効果	
課題・改善点	事業の長期化により、行政と実行委員会の役割分担が曖昧になってきているため、互いの役割を明確にする必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		明科駅周辺 まちあるき空き家・空き店舗見学会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	明科駅周辺まちづくり委員会	
	市側	市民生活部 移住定住推進課 空家活用係	

見学会の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	<p>明科地域は少子高齢化や人口減少が進み、令和4年4月に市内で一部過疎地域の指定を受けた。駅周辺は、公共施設や店舗など生活に利便性の高いコンパクトシティとして暮らしやすい環境であるが、空家の増加によりまちが空洞化し魅力や活力が衰退してきている。まちの魅力を情報発信しながら、空家の利活用を促進することで、移住や創業など交流、関係人口の創出から人口増加につなげることが課題となっている。</p>		
事業の目的	<p>空家に加えて、空家の利活用事例見学や、ガイドによるまちの歴史、文化などの魅力を情報発信し、移住や創業から生まれる人や地域とのつながりを体感することで、参加者と明科地域との関係性を生み出し、明科のまちに賑わいを取り戻すことを目的としている。</p>		
成果目標	<p>明科地域の魅力発信と空家物件の活用促進。（移住や創業など多様な利活用の成立）</p>		
実施場所	明科駅周辺	事業期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
事業の概要	<p>年間4回（5月20日「参加23名」・8月26日「参加15名」・11月11日「参加13名」・2月17日「参加11名」）開催。明科駅周辺のまちなかに点在する空家や利活用物件（龍門測てらすなど）の内覧によるマッチングとともに、地域に精通したガイドから歴史や文化、まちの魅力を紹介している。</p>		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	事業の企画、運営、空家物件の掘り起こし、活用のマッチング促進
	相手側	イベント統括、まちなかガイド、空家活用・創業・移住相談
	市側	予算執行（ガイド・建築士）、空家所有者交渉、開催通知、制度案内・相談

【実施結果】

成果目標の達成状況	ほぼ、達成できた。
協働による効果	<p>情報を共有、活用することで、所有者と利活用希望者による多様なマッチングの機会が生まれている。龍門測てらすでは、空家活用や移住相談に直接、対応しており、官民連携による総合的な空家対策が進んできている。</p>
課題・改善点	<p>空家を活用した地域活性化への所有者及び地域への理解浸透、未利用物件の活用促進</p>

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		空家現地相談会		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	NEX-T 安曇野		
	市側	市民生活部 移住定住推進課 空家活用係		

建物の確認をしている様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市内の空き家戸数は、令和5年12月末時点で979戸確認され、そのうち700戸程度は利活用可能なものとなっている。しかしながら所有者は様々な悩みや問題を抱え、活用まで至らないケースが多く課題となっている。		
事業の目的	空家所有者の具体的な悩みを現地で確認し、問題解消へのアプローチを図ることで、空き家を地域資源として、市の活性化につなげていくことを目的とする。		
成果目標	空家所有者との現地相談を1日4件行う		
実施場所	市内	事業期間	令和5年11月22日
事業の概要	空き家の現地へ宅地建物取引士と建築士と専門家を2名派遣し、建物の状態確認と合わせて所有者の漠然とした悩みや具体的な問題へのアドバイスを行っている。また建物の状態を確認し、補修や、解体など、今後の活用についてもアドバイスを行っている。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	事業の企画、運営
	相手側	専門家派遣調整・現地での建物確認・相談対応
	市側	予算執行（謝礼）、広報、申込受付、相談調整、補助金等案内

【実施結果】

成果目標の達成状況	ほぼ、達成できた。
協働による効果	所有者の様々な悩みや問題に対し、専門家による的確なアドバイスが行えた。
課題・改善点	日程や受付件数より現地相談ができない方への対応。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野玉ねぎ祭り		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野玉ねぎ祭り実行委員会参加団体（者）		
	市側	農林部 農政課 生産振興担当		

玉ねぎ収穫体験の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	旧豊科町が「安曇野とよしな玉ねぎ祭り」として開催。1997年(平成9)に当時の豊科町が「玉ねぎまちづくり連絡協議会」を設け、町を挙げて生産振興を進めてきた。タマネギに含まれる栄養が注目されるなか、砂質土壌で水はけが良い安曇野の地は玉ねぎ栽培に適しており、市内で広く生産がされている。現在では、水田の転作作物として安定して定着化しつつある。		
事業の目的	「安曇野玉ねぎ祭り」を実施し、安曇野市の主要農産物である「玉ねぎ」を通じて消費者との結び付きを強め、地産地消による地域農業振興を図ることを目的とする。		
成果目標	「玉ねぎ」を通じて消費者との結び付きを強め、産地としての周知を図る。		
実施場所	市内参加団体圃場	事業期間	令和5年6月17日～18日
事業の概要	市内参加団体圃場において、玉ねぎの販売及び収穫体験を行う。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	運営方法の検討及び決定
	相手側	参加団体圃場において、玉ねぎの販売及び収穫体験を行う
	市側	事務局（広報・連絡調整）

【実施結果】

成果目標の達成状況	産地として、またイベントも周知され多くの方に来場いただけた。
協働による効果	「玉ねぎ」を通じて消費者との結び付きを強め、産地としての周知を図れた。
課題・改善点	販売価格及び開催時期の調整

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		里山再生計画推進事業		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	市民・事業者		
	市側	農林部 耕地林務課 林務担当		

（さとぷろ学校での伐倒講習の様子）

【事業の概要】

取組の背景・課題	<p>生活様式の変化から里山の利用が減り、放置された森林が増加した結果、水源涵養機能、土砂災害防止機能の低下、林縁部においては鳥獣被害等様々な問題発生しており、多くの皆さんに関心を持ってもらう必要がある。</p> <p>このような問題の解決に取り組むため、「安曇野市里山再生計画」を策定。</p>		
事業の目的	<p>現在の生活様式にあった里山の利用から再生に繋げていくため、市民・事業者が主体となり、行政と連携した里山再生の取組を進める。</p>		
成果目標	<p>里山をあるべき姿に再生し、元気な里山を取り戻す</p>		
実施場所	市内全域（里山）	事業期間	平成 27 年 4 月～
事業の概要	<p>安曇野市里山再生計画に掲げた「里山の未来像」に共感した市民・事業者・行政が集う4つのプロジェクト（里山まきの環プロジェクト、里山木材活用プロジェクト、里山学びの環プロジェクト、里山の魅力発見プロジェクト）が計画推進の主動力となり、市内の里山で様々な取組を進める。</p>		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	里山再生につながる全ての活動
	相手側	里山再生活動につながる各種事業の考案及び事業開催等
	市側	さとぷろ。事務局の運営

【実施結果】

成果目標の達成状況	<p>里山再生には息の長い活動が重要。さとぷろ。活動に関わる市民。事業者は確実に増えている。</p>
協働による効果	<p>里山再生に携わる多様な主体が連携しながら取組むことの相乗効果</p>
課題・改善点	<p>毎年度、その時点の課題を整理し、取り組むべき内容を計画することが重要</p>

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市穂高北穂高地区 産業用地整備事業	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	株式会社ヤマウラ 株式会社d-ネクスト	
	市側	商工観光スポーツ部 商工労政課 商工労政担当	

(株)ヤマウラ、(株)d-ネクスト
との協定調印式

【事業の概要】

取組の背景・課題	市内外企業からの新たな事業用地を求めるニーズが大きいことから、新たな産業用地開発が必要となった。		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 市内企業の事業規模拡大に伴う移転先の確保 市外企業の受入先の確保 		
成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 市内企業の移転先を確保し、市内企業を市内へ留め、市民の雇用を維持する。 市外企業を新たに誘致し、市民の雇用創出、地域経済のさらなる活性化を図る。 		
実施場所	穂高北穂高	事業期間	未定
事業の概要	穂高北穂高地区の青木花見産業団地及び島新田工業団地の周辺地を新たな産業用地として開発する。本事業では、市が単独で開発するのではなく、民間の開発ノウハウや資金力を活用し、スピード感のある開発を目指す。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	企業誘致、地元説明
	相手側	設計・測量、地権者交渉、用地取得、許認可取得、造成、分譲
	市側	地域未来法に基づく計画策定、周辺インフラ整備の協力

【実施結果】

成果目標の達成状況	
協働による効果	
課題・改善点	

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称	信州安曇野食の感謝祭		
協働の形態	1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	信州安曇野食の感謝祭実行委員会 （事務局：安曇野市商工会）	
	市側	商工観光スポーツ部商工労政課 商工労政係	

豊稷宝船神前奉納の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	新そばと食の感謝祭・農林業まつりをリニューアルし、安曇野の「食」と特産品の魅力を再発見していただく機会として開催。		
事業の目的	安曇野のおいしい産物を再発見していただくことで、新たなファンを獲得すると共にブランド力の更なる向上を図ることで、コロナ禍により疲弊した地域経済の活性化を図る。		
成果目標	開催2日間における集客人数延べ 30,000 人		
実施場所	穂高神社特別会場	事業期間	11月11,12日（土,日）
事業の概要	北神苑会場（本殿・参道周辺含む） ■安曇野ブース（49ブース）パン&スイーツエリア、■安曇野グルメエリア ■特設ステージイベント 南神苑会場（本殿・参道周辺含む） ■特設ブース（25ブース）、■子ども向け体験イベント・特設展示コーナー（参集殿1F特設会場） 本殿周辺会場 ■地酒を楽しむ会、■豊稷宝船神前奉納（11/11）、■豊稷宝船奉納野菜配布（11/12） ■長野県無形民俗文化財指定「穂高人形飾り」や、境内周辺で開催中の「菊花展」を開催		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	実行委員会/連絡調整会議の開催/運営体制の確立/スタッフの確保・協力依頼/当日の運営
	相手側	出展募集/会場設営/事業者委託 等
	市側	施設予約/アルクマ対応 等

【実施結果】

成果目標の達成状況	2日間来客：30,000人（延べ人数）
協働による効果	事業の目的を共有し、多くの出展者の協力のもと2日間のイベントが盛大に開催され、安曇野市の農産品や加工品等を味わっていただく機会となりました。
課題・改善点	他のイベントとの日程が重なったことによる人出の分散 一部人気店に人が集中したことによる待機列の整理

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第40回早春賦まつり	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	早春賦まつり実行委員会	
	市側	商工観光スポーツ部 観光課 観光促進担当	

まつりの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	日本を代表する叙情歌「早春賦」を後世に歌い継ぐとともに、早春賦を愛する心を持つ市内外の人による観光交流人口の拡大を図る。早春賦歌碑を知らない人・興味がない人にもイベントを通じて「早春賦」に関心を持ってもらう。		
事業の目的	叙情歌「早春賦」を後世に歌い継ぐ、観光客の誘客を図る。		
成果目標	県内外から来場者を集め、「早春賦」を歌い広める。		
実施場所	穂高川右岸 早春賦歌碑前	事業期間	4月29日（土・祝）
事業の概要	市内小学生・文化協会コーラス部合唱、アルパ演奏、会場全体による早春賦合唱。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	運営方法の決定、当日の運営、課題抽出。
	相手側	出演者・関係団体との調整。
	市側	各種申請・手配。出演者・関係団体との調整。

【実施結果】

成果目標の達成状況	コロナウイルス感染症が5類移行になる前ということもあり、規模を縮小して開催し、当日は早春賦まつりのファンや児童の保護者など約100人の来場があった。
協働による効果	市内の小学生や合唱グループ、アルパ奏者の皆様に参加いただき、「早春賦」の合唱及び演奏を行う等「早春賦を後世に歌い継ぐ」という目的に沿った内容での開催ができた。
課題・改善点	会場が狭く収容人数の増大は見込めないため、事業規模の維持と誘客のバランスを取りながら、事業が形骸化しないよう取り組んでいく必要がある。 また、事業の目的が観光イベントというよりも早春賦を後世につなげる要素が強くなっていることから、今後の開催方法等を検討していく必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		信州安曇野ロゲイニング	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	信州安曇野ロゲイニング実行委員会	
	市側	商工観光スポーツ部 観光課 観光促進担当	

競技中の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	あやめ祭りの一環として実施していたものを独立して実施している。市内各地域で競技を行ってきたが、今後のやり方を検討する必要がある。		
事業の目的	安曇野を拠点にスポーツと観光を融合したロゲイニングを実施し、交流人口拡大を図る。		
成果目標	ロゲイニングを通じた交流人口の拡大。		
実施場所	安曇野市内	事業期間	令和5年5月13日（土）
事業の概要	毎年開催地域を変え、地域密着型のイベントとして開催。ロゲイニングを通じて安曇野市の魅力を発信し、安曇野ファンの増加や交流人口拡大を図る。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	運営方法決定、広報、当日の運営、課題の抽出。
	相手側	事業準備、運営。
	市側	各種申請、関係団体調整。

【実施結果】

成果目標の達成状況	今年度は市内外から約170人が参加し、交流人口の拡大に寄与した。
協働による効果	実行委員会を構成している団体と事務局を担っている市がそれぞれの役割を果たして事業を推進し、安曇野ファン獲得に大きな効果があった。
課題・改善点	競技性を損なわずに、より観光色を強めていく必要がある。 会場のビレッジ安曇野には、前泊利用、終了後の懇親会、後泊利用と多数の利用があり、経済効果はかなりあったと考えられる。今後は、より宿泊や飲食といった方面への効果を高めていく必要がある。 自家用車で来る人が9割ほどいたので、公共交通機関の利用促進を検討していきたい。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第16回安曇野花火	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野花火実行委員会	
	市側	商工観光スポーツ部 観光課 観光促進担当	

フィナーレの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	旧5町村が合併したことをきっかけに、市民の一体感の醸成と市の振興を目的に商工会青年部などが中心となり開催。今年度においては、コロナ前と同等の規模に戻し、通常規模で開催。		
事業の目的	市民の一体感の醸成と、郷土の振興を目的とする。		
成果目標	安曇野花火を通じた交流人口の拡大。		
実施場所	明科御宝田遊水池周辺	事業期間	8月14日（月）
事業の概要	明科の御宝田遊水池周辺を会場として花火大会を開催する。周辺の交通規制や臨時駐車場を設けることなどで安全な大会運営を行う。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	運営方法決定、当日の運営、課題の抽出。
	相手側	各部会による事業準備、運営。
	市側	各種申請、関係団体調整。

【実施結果】

成果目標の達成状況	今年度は、市内外から約20,000人が訪れ、交流人口の拡大に寄与した。
協働による効果	実行委員会を構成している団体と事務局を担っている市がそれぞれの役割を果たして事業を推進し、大きな誘客効果があった。
課題・改善点	実行委員会と市が役割を明確にし、緊急時の対応も含め、より安全な大会運営を行う必要がある。 会場規模、立地条件が限られており、需要拡大に対応するには限界がある。 実行委員の数が減り個々の負担が増加している。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野やさいスイーツプロジェクト	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野やさいスイーツプロジェクト	
	市側	商工観光スポーツ部 観光課 観光促進担当	

「安曇野産夏秋いちご」を使ったスイーツの商品発表会の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	平成 22 年にスタートし、安曇野産の野菜を使用したスイーツであることを条件として、市産野菜のアピールや安曇野産の商品開発を行い、持続的な地域経済の活性化を図る。参加店舗の減少やテーマとする野菜のマンネリ化などが課題となっている。時期の変更や PR 方法についても検討する段階である。		
事業の目的	地産地消にこだわった新作スイーツイベント「やさいスイーツフェア」を開催することで、安曇野の自然の恵みを多くの人に伝え、市の新たな食の情報発信を行うことを目的とする。		
成果目標	「野菜×スイーツ」で地産地消を PR し、購入者の市内回遊を図り、安曇野産野菜のブランド力向上と、市の魅力を市内外へ発信することを目標とする		
実施場所	安曇野市内 (プレイバント：大王わさび農場)	事業期間	令和 5 年 9 月下旬～同年 11 月
事業の概要	10 月上旬～プロジェクト参加各店舗が、安曇野産野菜を使った新作のスイーツを期間限定で販売する。フェアを通じ、観光・産業・野菜の生産振興につなげる。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	プレイバントの開催、やさいスイーツフェアの実施
	相手側	補助金の申請、商品発表会への参加、プレイバントへの参加、フェア中の広報
	市側	事務局（広報物の作成、プレスリリース、商品発表会の実施、イベントの備品手配、シールラリー当選者への商品券発送）

【実施結果】

成果目標の達成状況	安曇野やさいスイーツを市外へ発信する取り組みとして、大王わさび農場でプレイバントを開催し県内外の観光客の皆さんに取組みを PR することができた。
協働による効果	地元の老舗スイーツ店が多く参加していることから、市内の方への周知は徐々に広がりを見せている。
課題・改善点	参加店舗の減少やテーマとする野菜のマンネリ化などが課題となっている。設立当初は安曇野市が実施してきた事業であるが、参加店舗が主体となり実施していく必要がある。イベント出展など、プロジェクトとして自主財源の確保に努める必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野 APPLE HALLOWEEN	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（後援）	
実施団体	相手側	JR 東日本長野支社	
	市側	商工観光スポーツ部 観光課 観光促進担当	

三五山トンネルの装飾

【事業の概要】

取組の背景・課題	旧国鉄篠ノ井線廃線敷にて駅からハイキングと併せたイベントとして 2020 年より実施し、今年で4回目。主催は JR 東日本長野支社で、市は後援として協力している。		
事業の目的	ハロウィンイベントを通して地元の人に廃線敷の魅力を再認識してもらう。また、JR を利用して県外から来た観光客に廃線敷含む安曇野市を PR する。		
成果目標	明科駅を含む明科地域の活性化		
実施場所	旧国鉄篠ノ井線廃線敷	事業期間	10 月最終土曜日・日曜日
事業の概要	トンネル内へ地元小学生と園児が制作したジャック・オー・ランタンの展示 りんご&缶バッジワークショップ（各日先着 50 名） 廃線敷マルシェ（安曇野林檎ナポリタンや円揚げの販売、えべや・西村商店出店） JA あづみによる規格外りんご詰め放題（有料）の実施 駅からハイキング・さわやかウォーキング など		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	運営方法の決定、当日の運営、課題抽出。
	相手側	各種申請・手配。
	市側	出演者・関係団体との調整。

【実施結果】

成果目標の達成状況	両日あわせて市内外から約 1,200 人が訪れ、交流人口の拡大に寄与した。
協働による効果	JR と市がそれぞれの役割を果たして事業を推進し、大きな誘客効果があった。
課題・改善点	JR の組織改革によりこのイベントに人員を割くことが難しいため事業主体協働と並行検討していかなければならない。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		信州安曇野ハーフマラソン事業		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	信州安曇野ハーフマラソン実行委員会		
	市側	商工観光スポーツ部スポーツ推進課 スポーツ推進担当		

第9回大会 ハーフの部スタート場面

【事業の概要】

取組の背景・課題	健康寿命を延ばすためにも、普段運動をしない方々に対し、いかに運動を始める機会を創出できるかが求められている。マラソンブームを背景に大会の人気を伸ばしてきたが、ブームが低迷した場合に参加者をどのようにつなぎ止めるか。例年、主要幹線道路の交通規制によりルートを確認しているが、混雑や混乱、苦情をいかに減らしていくかが課題。		
事業の目的	大会参加や知名度向上により、安曇野を知ってもらい、県内外からの観光客を誘致するため。運動するきっかけとしてもらうため。応援やボランティアを通じて市民の一体感の向上を目指すため。		
成果目標	市内宿泊業の活性化、安曇野市の知名度向上、スポーツまたは運動に関わる機会の創出、協賛による市内産業の宣伝効果		
実施場所	豊科南部総合公園 市総合体育館(ANCアリーナ)	事業期間	令和5年10月1日～ 令和6年9月30日
事業の概要	信濃毎日新聞社共催のもと、市や市内スポーツ競技団体、商工業団体等からなる実行委員会を主体に、県内外から6,500人程のランナーを募集し、ハーフマラソン大会を開催する。ボランティアや協賛者と協力し、参加ランナーに対し安曇野ならではのおもてなしを行う。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	信州安曇野ハーフマラソンの計画、実施
	相手側	実行委員会の運営、競技運営、安全対策、おもてなし
	市側	補助金の支払、事務局、会計、共催後援申請、各種申請

【実施結果】

成果目標の達成状況	参加者の約20%が市内宿泊施設を利用し、また提供した宿泊者限定プランも好評だった。大会評価サイト上では、全国の大会の中でも評価の高い大会であり、他の大会が軒並み定員割れする中、当マラソンは締め切り直前に定員に達する人気大会である。ランナーとして、またボランティアとして大会に参加することによって運動を始めるきっかけをつくり、参加者の中には大会を機に陸上競技を初めて、全国大会に出場した方もいた。市内企業の製品をおもてなし品として提供しており、大会を経るごとにより多くの協賛を賜るようになっている。
協働による効果	市民や市内企業・団体と行政が一体となり、マラソン大会の開催を通じて安曇野市の魅力発信や市民の一体感の醸成、スポーツに触れる機会の創出に取り組むことが出来た。
課題・改善点	マラソン競技者数が減少した場合にも安定して大会参加者を獲得する必要がある。マラソン大会の運営費用の一部を市の補助金に頼っている状態であることから、市内企業の協賛社をさらに増やす取り組みをし、大会参加費用と協賛金等のみで大会運営を行える状態に変える必要がある。市外からの参加者を市内に引き留め、宿泊者数をさらに増やす取り組みを行う必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市コミュニティスクール事業	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	地域住民、各種ボランティア団体等	
	市側	安曇野市立小中学校 17 校 (教育部 学校教育課 学校教育担当 生涯学習課 社会教育係)	

豊科南小学校 地域学校協働活動
百石堰クリーン大作戦

【事業の概要】

取組の背景・課題	地域社会の中で育まれてきた子ども達の経験や学びの機会が失われつつある中で、子ども達がたくましく生き抜くために必要な能力を身に付けるため、地域全体で多様な教育を行うことが求められている。		
事業の目的	地域住民が学校運営に加わる学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に推進し、学校と地域全体で子どもの学びと成長を支える。		
成果目標	様々な人やものとの関わりを通して、子ども達の学びや体験活動の充実を図り、地域への愛着心を養う。 地域住民の交流や地域の人材や資源を活用し、地域づくりを進める。		
実施場所	小中学校及び地域	事業期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
事業の概要	市内小中学校に設置された「学校運営協議会」で共有された地域で育てたい子ども像、目指すべき教育のビジョンを基に、各小中学校での学校ボランティア活動や、地域と学校による協働活動の実践を進める。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	地域学校協働活動の検討及び提案、活動への参加
	相手側	地域学校協働活動への参加、参加呼びかけ、活動の企画・提案、活動後の要望・感想の伝達
	市側	地域学校協働活動の検討及び提案、活動への参加、支援者や参加者の募集依頼

【実施結果】

成果目標の達成状況	所期の目的は達成され、一定の成果は達成されている。
協働による効果	子ども達の体験活動が充実し、地域住民の生きがいづくりを創出することに繋がった。
課題・改善点	地域住民への制度周知、民意形成と集約方法の確立

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		令和6年 安曇野市二十歳の集い	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	令和6年安曇野市二十歳の集い実行委員会	
	市側	教育部 生涯学習課 社会教育係	

二十歳の集い式典の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	実行委員にとっては、参加が生涯学習の一環として「新しい自分や仲間と出会う」機会となるよう、また、参加者にとっては、式典が思い出に残る良い1日となるよう、同年代の代表として組織される実行委員が、より実質的な役割を担う実行委員会へ進化する必要がある。		
事業の目的	令和6年1月7日(日)開催「令和6年安曇野市二十歳の集い（以下「式典）」に係る企画・運営		
成果目標	安曇野市にゆかりを持つ20歳の若者が一堂に会す式典を行うことで、ふるさと安曇野を思い合うきっかけをつくる。		
実施場所	安曇野市総合体育館 等	事業期間	令和5年8月～令和6年2月
事業の概要	二十歳の集いの広報、式典開催、記念冊子作成		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	実行委員会協議、式典運営
	相手側	「広報」・「企画」・「制作」の3チーム毎に企画・運営
	市側	実行委員の募集・決定、式典の事前準備、参加者・来賓への開催通知

【実施結果】

成果目標の達成状況	参加者 700 名
協働による効果	参加者の意向に沿った完成度・満足度の高い式典となった。 記念品も、思い出に残る記念冊子を作成することができた。
課題・改善点	実行委員の主体性を尊重しつつ、市側のサポートの程度を考える必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市総合芸術展		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野市総合芸術展実行委員会		
	市側	教育部 生涯学習 各地域公民館 社会教育係		

総合芸術展展示会場の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	合併後、地域を越えて安曇野市がひとつであるという認識を共有し、芸術・文化をとおしての地域づくりを考える機会の創出が必要であった。		
事業の目的	安曇野市公民館と協力して、市内で芸術文化に親しむ皆さんの作品を一堂に集め、展示する場を設けることにより、地域を越えて安曇野市がひとつであるという認識を共有し、芸術・文化をとおしての地域づくりを考えることを目的とする。		
成果目標	令和4年度来場者実績（661人）を上回る来場者数を目標とする。		
実施場所	豊科交流学習センター	事業期間	令和6年3月7日～3月15日
事業の概要	各地域文化祭に出展された作品のなかから選出されたものを一堂に集めて展示をし、芸術・文化をとおしての地域づくりを進める。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	総合芸術展の運営・企画全般の検討と実施
	相手側	総合芸術展出品作品の選定、広報
	市側	総合芸術展の広報用ポスター・チラシ・DMハガキの作成

【実施結果】

成果目標の達成状況	毎年同時期に近代美術館で開催されている絵画展側から来られる入場者数が減ったため、令和5年度来場者実績は606人となり成果目標まで達することができなかったが、総合芸術展側からの入場者数は前年並みであった。
協働による効果	実行委員、地域公民館、社会教育係の協働により、総合芸術展側からの入場者数は前年並みであった。
課題・改善点	若い世代の出品者および観覧者を増やすことが必要である。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第 60 回童謡祭り 第 42 回作詞作曲コンクール 第 43 回作詞作曲コンクール	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	童謡祭り実行委員会	
	市側	教育部 生涯学習課 豊科生涯学習係	

第 42 回作詞作曲コンクール最優秀曲の発表

【事業の概要】

取組の背景・課題	「子どもに良い歌を」と願い、豊科町で続いてきた事業。合併後は安曇野市教育委員会が主催し、平成 19 年度から実行委員会が継承した。		
事業の目的	安曇野市豊科出身の詩人でドイツ文学者だった藤森秀夫先生の業績を顕彰するとともに、童謡の心を絶やすことなく伝えていくため。		
成果目標	童謡祭り及び市内児童生徒対象の作詞作曲コンクールを実施し、子どもたちが音楽に親しむ機会を創出する。		
実施場所	豊科交流学習センター 他	事業期間	令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日
事業の概要	第 42 回作詞作曲コンクールを開催し、第 60 回童謡祭り（期日：5 月 27 日、会場：豊科交流学習センター）において、表彰、曲の披露を行った。また、藤森秀夫作詞の「めえめえ児山羊」を碑前で斉唱した。 第 43 回作詞作曲コンクールを開催し、表彰式（期日：2 月 24 日、会場：豊科公民館）を行った。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	童謡祭り、作詞作曲コンクール表彰式の運営
	相手側	実行委員会の運営
	市側	学校との調整、作詞作曲コンクール応募作品の受付

【実施結果】

成果目標の達成状況	童謡祭りは、コロナ禍で規模を縮小したが、第 43 回作詞作曲コンクールには、例年より多い 82 点の応募があった。
協働による効果	市民と行政が目的を共有し、それぞれ役割を分担し取り組み、目標を達成することができた。
課題・改善点	作詞作曲コンクールを年度跨ぎで実施しているため、表彰、作品の披露など円滑に進められないことがある。 事業開始以来、60 年が経過した。時代に即した事業に発展させる必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		穂高納涼祭		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	穂高納涼祭実行委員 穂高商業高校		
	市側	教育部生涯学習課穂高生涯学習係 市民生活部地域づくり課穂高地域担当		

穂高地域で活動する団体のステージ発表

【事業の概要】

取組の背景・課題	当該納涼祭は地域 29 公民館を主体とし、穂高駅前を主会場として開催した納涼盆踊りであったが、コロナ禍明けを経て、実行委員会協議により催事内容を見直した。盆踊りは市民を対象とした盆踊り講習会を講堂で実施した。		
事業の目的	4年ぶりの開催となった第40回穂高納涼祭は、穂高会館を会場として、穂高地域の方々によるステージカーでの出し物を鑑賞しながら、ご来場の皆様が夏の夕涼みの時間を過ごしていただくことを目的とした。		
成果目標	市民およそ 1,000 人のご来場をいただく。		
実施場所	穂高会館駐車場	事業期間	令和5年8月5日
事業の概要	地域の皆様が集い、ステージ発表を通して夏の夕べを楽しむ初の企画 8月5日（土）夕方 ステージ発表（和太鼓、ダンスグループ・郷土民謡・詩吟・金管バンド・合唱・フラダンス等9グループ）、シャトルバス、物販販売など		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	会場準備・片付け、催事運営
	相手側	出演、会場整理
	市側	企画、契約事務、広報活動

【実施結果】

成果目標の達成状況	未就学児童から高齢者まで、世代を超えた出演者によるパフォーマンス発表の場となり、市民の融和と交流ができた。
協働による効果	地元高校生が納涼祭の会場準備から出演まで参加し、実行委員や出演者との関わり合いを通して、地域協働の実体験を得ていただけた。
課題・改善点	夏場が実施時期であるので熱中症対策を図る。より多くの参加者を募る。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		穂高地域公民館長杯マレットゴルフ大会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	穂高マレットゴルフ協会	
	市側	教育部 生涯学習課 穂高生涯学習係	

権現宮マレットゴルフ場での開会式

【事業の概要】

取組の背景・課題	スポーツを通じたコミュニティの醸成と日頃の運動不測の解消		
事業の目的	地域にお住いの皆様のマレットゴルフを通じた交流と健康増進を目的とする。		
成果目標	市民およそ 120 人のご参加を目標とする。		
実施場所	権現宮マレットゴルフ場	事業期間	令和5年7月21日
事業の概要	権現宮マレットゴルフ場にてマレットゴルフ大会を実施 参加者延べ 80 人		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	会場準備、運営
	相手側	競技進行、競技参加
	市側	参加者募集、競技受付

【実施結果】

成果目標の達成状況	参加者 37 人
協働による効果	市民の交流と健康増進が期待される。また、協議に精通した市民の協力を得ることにより、当日の競技進行等をスムーズに進めることができた。
課題・改善点	夏場が実施時期であるので熱中症対策を図る。また、幅広い年齢層の参加を促すために来年度は休日開催とし、家族連れでの参加を促す。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市穂高地域ゴルフ大会		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	穂高地域ゴルフクラブ		
	市側	教育部 生涯学習課 穂高生涯学習係		

当日配布されたパンフレット

【事業の概要】

取組の背景・課題	スポーツを通じたコミュニティの醸成と日頃の運動不測の解消		
事業の目的	地域にお住いの皆様のゴルフを通じた交流と健康増進を目的とする。		
成果目標	市民およそ 70 人のご参加を目標とする。		
実施場所	穂高カントリークラブ	事業期間	令和5年8月30日
事業の概要	穂高カントリークラブにてゴルフ大会を実施 参加者延べ 70 人		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	会場準備、運営
	相手側	競技進行、競技参加
	市側	参加者募集、競技受付

【実施結果】

成果目標の達成状況	参加者延べ 70 人
協働による効果	市民の交流と健康増進が期待される。また、協議に精通した市民の協力を得ることにより、当日の競技進行等をスムーズに進めることができた。
課題・改善点	夏場が実施時期であるので熱中症対策を図る。幅広い年齢層の参加を促す。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		穂高地域地区公民館対抗球技大会		
協働の形態		1. 共催 ②. 事業協力 (協定) 3. 実行委員会 4. その他 ()		
実施団体	相手側	穂高家庭婦人バレーボール協会 穂高壮年ソフトボール連盟 穂高ソフトバレーボールクラブ		
	市側	教育部 生涯学習課 穂高生涯学習係		

ソフトバレー競技（穂高総合体育館）

【事業の概要】

取組の背景・課題	スポーツを通じたコミュニティの醸成と日頃の運動不測の解消		
事業の目的	地域にお住いの皆様のスポーツを通じた交流と健康増進を目的とする。		
成果目標	より多くの公民館からの参加を目標とする。		
実施場所	穂高地域内グラウンド 穂高地域内体育館	事業期間	令和5年6月18日 令和5年11月19日
事業の概要	6月 9人制バレーボール 参加5チーム（5公民館）延べ53人 6月 ソフトボール 参加19チーム（19公民館）延べ318人 11月 ソフトバレーボール（3区分）参加40チーム（21公民館）延べ335人		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	会場準備、運営
	相手側	競技進行、競技参加、審判員
	市側	参加者募集、競技受付

【実施結果】

成果目標の達成状況	6月 9人制バレーボール 参加5チーム（5公民館）延べ53人 6月 ソフトボール 参加19チーム（19公民館）延べ318人 11月 ソフトバレーボール（3区分）参加40チーム（21公民館）延べ335人
協働による効果	市民の交流と健康増進が期待される。また、協議に精通した市民の協力を得ることにより、当日の競技進行等をスムーズに進めることができた。
課題・改善点	怪我防止の注意を喚起。幅広い年齢層の参加を促す。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		穂高文化祭		
協働の形態		1. 共催 2. <u>事業協力</u> (協定) 3. 実行委員会 4. その他 ()		
実施団体	相手側	穂高文化協会		
	市側	教育部 生涯学習課 穂高生涯学習係		

芸能発表会（穂高地域学校による金管発表）

【事業の概要】

取組の背景・課題	地域の文化芸能各団体が日頃の成果を発表することで、市民が集い地域活動の理解、市民の親睦を図る。		
事業の目的	市民の文化・芸能の振興を図る。		
成果目標	出品・出演団体を穂高地域内へ広く募る。1,000人以上の来場を目指す。		
実施場所	穂高公民館	事業期間	令和5年10月20日～11月12日
事業の概要	総合美術展 10月27日～29日 あづみ野菊花展、盆栽・山野草展、穂高人形展 10月20日～11月12日 芸能まつり（カラオケ発表会、第1部、第2部）10月27日～29日		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	会場準備・片付け、リハーサル
	相手側	出品・参加者募集
	市側	広報、事務局、記録写真

【実施結果】

成果目標の達成状況	来場者 1,482人（出演者含む）
協働による効果	日頃より文化芸能活動に精通した市民の協力を得ることにより、展示や運営などをスムーズに行えた。
課題・改善点	出品・出演数が減少傾向であるため、より多く参加いただけるよう周知方法を工夫する必要がある。併せて多くの方にご来場いただけるよう取り組む。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		三郷祭 (三郷地域市民文化産業展及び菊花展)	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力(協定) 3. 実行委員会 4. その他()	
実施団体	相手側	三郷地域市民文化産業展実行委員会	
	市側	教育部 生涯学習課 三郷生涯学習係	

三郷地域市民文化産業展

【事業の概要】

取組の背景・課題	地域の文化・芸術作品の展示を行い、市民が集うことで地域の文化・芸術活動の理解、市民の親睦を図る。		
事業の目的	市民の文化、産業の振興及び親睦を図る。		
成果目標	作品の出展を三郷地域内へ広く募る。1,000人以上の来場を目指す。		
実施場所	三郷公民館	事業期間	令和5年6月～令和5年12月 (開催は、文化産業展：10月13日～10月15日、菊花展：10月30日～11月6日)
事業の概要	文化・芸術作品展示(こども園児及び小中学生の力作展含む)や菊花作品展示を行う。抹茶・コーヒーの振る舞いもある。 <u>展示内容</u> 三郷郷地域住民の芸術文化作品及び小・中学校児童、生徒の力作展、認定こども園の園児及び友好都市の生徒の力作展、みさと伝統こどもいけばな教室展示、三郷昆虫クラブ展示、七日市場地区公民館展示		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	出展作品の搬入及び搬出の補助、会場内の監視
	相手側	開催内容についての協議
	市側	広報、事務局

【実施結果】

成果目標の達成状況	出展者 466の個人及び団体(689点)、来場者 1,138人
協働による効果	行政のみで実施するよりも自分たちの活動との意識のもと、責任を持った運営を行うことで、準備等をスムーズに進めることができた。
課題・改善点	市民グループ等の高齢化に伴い出展数が減少している。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		三郷祭 (三郷地域市民運動会)		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力 (協定) 3. 実行委員会 4. その他 ()		
実施団体	相手側	三郷地域市民運動会実行委員会		
	市側	教育部 生涯学習課 三郷生涯学習係		

三郷地域市民運動会

【事業の概要】

取組の背景・課題	運動会への参加については、地区公民館役員の負担をできるだけ軽減する必要がある。また、運動会開催の意義を共有する必要がある。		
事業の目的	市民体力の向上及び市民相互の融和を図る。		
成果目標	種目への参加を三郷地域内へ広く募る。1,000人以上の来場を目指す。		
実施場所	三郷文化公園グラウンド	事業期間	令和5年6月～令和5年12月 (開催は10月22日)
事業の概要	<p>これまで開催してきた運動会の種目を全面的に見直し、参加しやすい運動を開催することで、市民の親睦を図る。</p> <p>《実施した種目》計8種目 三郷〇×クイズ、一致団結リレー、大声勝負!一番は誰?、自分の命を守れ、ねらえホールインワン、おやつですよ、パンゲット!、親子でダンスとお土産ひろい、小学生ダンス</p>		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	会場設営、参加者募集
	相手側	種目への参加、運営協力
	市側	広報、事務局、運営

【実施結果】

成果目標の達成状況	来場者 1,200人 (種目参加者含む)
協働による効果	行政のみで実施するよりも自分たちの活動との意識のもと、責任を持った運営を行うことで、当日の進行等をスムーズに進めることができた。
課題・改善点	地区公民館対抗ではなく、個人による事前申込や当日申込を中心とした運動会を実施する。また、防災的要素を加味した種目を企画していく。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		三郷祭 (三郷地域市民芸能発表会)	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力 (協定) 3. 実行委員会 4. その他 ()	
実施団体	相手側	三郷地域市民芸能発表会実行委員会	
	市側	教育部 生涯学習課 三郷生涯学習係	

三郷地域市民芸能発表会

【事業の概要】

取組の背景・課題	芸能団体が日頃の練習の成果を発表することで、市民が集い地域の芸能・文化活動の理解、市民の親睦を図る。		
事業の目的	市民の芸能、文化の振興を図る。		
成果目標	出演団体を三郷地域内へ広く募る。200人以上の来場を目指す。		
実施場所	三郷公民館	事業期間	令和5年6月～令和5年12月 (開催は11月4日)
事業の概要	三郷公民館を利用している芸能団体を中心にステージを設定していく。 出演団体 10団体 (三郷芸術文化協会5団体、一般5団体) <u>内訳</u> 舞踊 (3)・歌謡(1)・獅子舞 (1)・太鼓 (1)・フラダンス (2)、社交ダンス (1)・リズム体操 (1)		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	会場設営、リハーサル
	相手側	受付、音響、照明、記録写真
	市側	広報、事務局

【実施結果】

成果目標の達成状況	来場者 285人 (出演者含む)
協働による効果	行政のみで実施するよりも自分たちの活動との意識のもと、責任を持った運営を行うことで、準備等をスムーズに進めることができた。
課題・改善点	参加団体が減少しているため、より多くの団体に出演していただくよう、周知の方法を工夫する必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		三郷祭 (三郷地域ふれあいコンサート)	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力 (協定) 3. 実行委員会 4. その他 ()	
実施団体	相手側	三郷地域ふれあいコンサート実行委員会	
	市側	教育部 生涯学習課 三郷生涯学習係	

三郷地域ふれあいコンサート

【事業の概要】

取組の背景・課題	音楽団体が日頃の練習の成果を発表することで、市民が集い地域の芸能・文化活動の理解、市民の親睦を図っている。		
事業の目的	市民が音楽にふれあうことで市民相互の融和及び精神的豊かさの向上を図る。		
成果目標	出演者を三郷地域内へ広く募る。300人以上の来場を目指す。		
実施場所	三郷中学校 講堂	事業期間	令和5年6月～令和5年12月 (開催は10月28日)
事業の概要	三郷公民館を利用している音楽団体を中心にステージを設定した。 出演者 76名 (団体6、個人2)		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	受付、会場設営
	相手側	出演、司会進行
	市側	広報、事務局

【実施結果】

成果目標の達成状況	来場者 330人 (出演者含む)
協働による効果	行政のみで実施するよりも自分たちの活動との意識のもと、責任を持った運営を行うことで、準備等をスムーズに進めることができた。
課題・改善点	出演者が減少しているため、より多くの団体・個人に出演していただくよう、周知の方法を工夫する必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第7回常念フェスティバル		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	常念フェスティバル実行委員会		
	市側	教育部生涯学習課堀金生涯学習係 市民生活部地域づくり課堀金地域担当		

常念フェスティバル（屋内の様子）

【事業の概要】

取組の背景・課題	平成29年度から有志による実行委員会（市側は事務局）により常念フェスティバルを開催してきたが、令和4年度まで3年間中止になっていた。実行委員の高齢化による実動力の減少が課題となっていた。		
事業の目的	地域コミュニティの活性化、地域振興		
成果目標	「常念フェスティバル」を開催し、市民が集い、楽しんでいただく。		
実施場所	堀金多目的屋内運動場・堀金中央公園	事業期間	令和5年8月26日
事業の概要	<p>商工会に加え、新たに21団体から実行委員に参加いただき、会議及び当日の運営に携わっていただいた。</p> <p>○常念フェスティバルの内容 パフォーマンス（ステージ発表）・出店・フリーマーケット・体験・子ども食堂 福もち福菓子投げ など</p>		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	フェスティバルの企画・運営
	相手側	協賛金集め
	市側	広報、会場提供、事務局

【実施結果】

成果目標の達成状況	多くの来場があり盛大に開催することができた。
協働による効果	各種団体の出店、支援を得ることができた。
課題・改善点	運営への子どもたちの参加

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		堀金のお宝発見講座	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	ふるさと堀金を楽しむ会	
	市側	教育部 生涯学習課 堀金生涯学習係（堀金公民館）	

7/17「古墳・奈良時代」の講演会

【事業の概要】

取組の背景・課題	相手側は堀金の歴史や自然・文化・人物のすばらしさを地域の大切な宝ものとして楽しむ活動（講演会等）をしていたが、多分野に渡る講演会に会員以外のより多くの人に参加していただけるよう、市側が広報をすることになった。		
事業の目的	地元住民にも知られていない地元の歴史・文化財・自然など「堀金の宝」を再認識していただく。		
成果目標	地域に対する理解を深めていただく。		
実施場所	堀金公民館	事業期間	令和5年4月9日～令和6年3月20日
事業の概要	講演会 11回（4/9 地質から見たおもしろさ、5/15 小田多井の石仏、6/19 養蚕労働における女性の働き、7/17 古墳から見る古墳・奈良時代、9/12 祭りを大事に、10/16 戦争、11/20 お宝に触れてみよう、12/18 ヨーロッパから見ると、1/15 資料から見る遠足、2/19 小説安曇野と広辞苑、3/20 堀金の宝）、現地見学会 3回（5/16 小田多井の石仏、8/6 拾ヶ堰、11/19 お宝に触れてみよう）		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	講演会の企画・運営
	相手側	講師の手配、講演会司会進行
	市側	広報、会場提供、資料印刷

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分達成できた。
協働による効果	多分野に渡る講師の選定、講演会等への多数の参加者
課題・改善点	令和5年度をもって相手方が活動を停止するため、協働での実施は終了となる。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業 の 名 称	いいまちサロン
協働 の 形 態	1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）
実 施 団 体	相手側 明科いいまちつくろうかい！
	市側 教育部 生涯学習課 明科生涯学習係



9/2 うまいもん市で団体の主張後の集合写真

【事業の概要】

取組の背景・課題	明科地域は、高齢化や独居老人の増加に伴い、地域とのつながりが希薄になってきている。		
事業の目的	「交流、親睦、学び」を目的とする。		
成果目標	高齢化社会に向けての健康づくり、絆づくり、生きがいの増進を図る。		
実施場所	明科地域	事業期間	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日
事業の概要	毎月テーマを決め、お茶を飲みながら気軽に参加できるサロンを 4/25、5/30、6/27、7/25、10/31、12/26、1/30、2/27、3/22、最終火曜日を基本に開催。 コンサートやアコーディオンにあわせて懐かしい歌をうたったり、健康食、明科の考古学さんぽ、平和といったテーマで講演会等を開催しました。 9/2 には代替事業として「うまいもん市」を開催しました。		

【協働の役割分担】

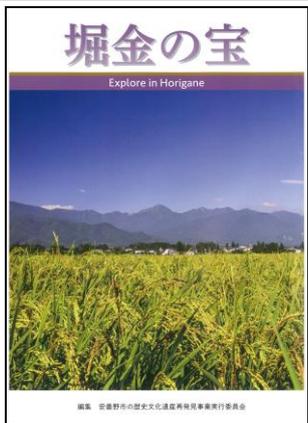
役割 分 担	一緒の取組	いいまちサロンの開催
	相手側	企画立案、準備、当日の運営等
	市側	会場手配（明科公民館）、参加申込の受付、広報掲載

【実施結果】

成果目標の達成状況	達成できた。
協働による効果	役割分担により効果的にサロンを開催することができた。
課題・改善点	会員の高齢化により事業や組織の存続が危ぶまれる。 次世代会員の獲得。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市の歴史文化遺産の再発見事業	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市の歴史文化遺産再発見事業 実行委員会	
	市側	教育部 文化課 博物館担当	

事業により刊行した冊子「堀金の宝」

【事業の概要】

取組の背景・課題	当実行委員会では、平成 31 年度（令和元年度）から毎年度、市内の地域ごとに歴史文化遺産をテーマにした冊子を刊行している。これまでに各地域についての冊子が発行され、本年度は最終年度として堀金地域に関するものを刊行する。		
事業の目的	冊子の刊行や講座の開催等により、安曇野市内の各地域の歴史文化遺産の魅力を市民にわかりやすい形で発信し、地域の歴史文化遺産への関心を高めてもらうとともに、地域おこしの材料を提供する。		
成果目標	「宝」シリーズ冊子の刊行及びそれを生かした講座等の開催		
実施場所	安曇野市内	事業期間	令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 2 月 28 日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市豊科郷土博物館や安曇野市教育委員会の職員等の共同執筆により、各地域の歴史文化遺産を紹介する一般向けの冊子を刊行する。 ・執筆に伴う調査成果をもとに、公民館及び社会福祉協議会等と共働して、地域住民を対象とした講座を実施する。 		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	執筆、編集作業
	相手側	執筆に向けた資料の調査、講座の講師
	市側	印刷業務

【実施結果】

成果目標の達成状況	令和 6 年 3 月末をもって達成の見込みである
協働による効果	本年度の刊行予定である冊子「堀金の宝」の刊行、配付
課題・改善点	全地域分の冊子が刊行されたため、今後は全市域に跨る講座等を企画したい

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野さんぽ市 2023		
協働の形態		①. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野さんぽ市実行委員会		
	市側	教育部 文化課 文化振興担当		

当日の出展の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	地域で活動するものづくり作家（アマチュアも含む）と使い手側の市民とが直接顔を合わせ、交流する機会を創出することを目的とした事業。		
事業の目的	地域に根付いた活動をするものづくり作家と、使い手側とが交流できる場を作る。また、会場である穂高交流学習センターを多くの市民に利用してもらい、交流の場としての役割を果たす。		
成果目標	人の出会いや交流の創出、それらの場としての施設の定着。		
実施場所	安曇野市穂高交流学習センター「みらい」	事業期間	令和5年5月20日～5月21日
事業の概要	安曇野市を中心に活動するものづくり作家や職人たちが出展者となり、手作り品の展示・販売・ワークショップを行う。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	運営、来場者受付、イベント告知
	相手側	事務局（参加者募集、問い合わせ対応、支出管理）、ブース配置決め など
	市側	施設の貸出し、敷地内の管理 など

【実施結果】

成果目標の達成状況	コロナ5類移行後で例年並みの規模での開催となった。ものづくり作家や職人たちと市民が交流する場や機会をつくり出すことができた。
協働による効果	市民と行政が連携することで、交流の場の創出事業を実施することができた。
課題・改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出展者に搬入と搬出の時間やルールを徹底し、混乱がないよう努める。 ・ 出展受付にGoogleフォームを使い、複数人で管理することで事務管理の精度を高める。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市ミュージアム活性化事業	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市ミュージアム活性化事業 実行委員会	
	市側	教育部 文化課 文化振興担当	

あづみの学校ミュージアムの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	公立館と私立館が単独では学校や地域に関わる事業が行いにくい。また各館の職員数が限られており、相互の学びあいの機会や地域との関わりの接点が求められている。		
事業の目的	市内に点在する美術館・博物館が連携して事業を行うことで、相互の資質向上を目指す。地域文化振興の核としての役割を果たし、安曇野市の一体感の醸成に寄与する。		
成果目標	今年度計画した6つの事業の実施		
実施場所	市内各館	事業期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
事業の概要	(1) オンラインギャラリートーク (2) 安曇野ミュージアムギャラリートークリレー2023 (3) 美術館博物館職員等研修会 (4) 信州大学連携 (5) あづみの学校ミュージアム (6) ミュージアムサポーター		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	実行委員会、専門部会
	相手側	実行委員会、専門部会
	市側	事務局、専門部会

【実施結果】

成果目標の達成状況	実施済み。
協働による効果	公私館の共通課題を、より大きな規模で事業を実施しながら解決できる。
課題・改善点	双方の業務量や主体がどちらにあるかを考え、事業計画をする必要がある。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第 32 回信州安曇野薪能	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	信州安曇野薪能実行委員会	
	市側	教育部 文化課 文化振興担当	

実施の様子（能 半部の一場面）

【事業の概要】

取組の背景・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市名誉市民で観世流能楽師の青木祥二郎氏の顕彰をする。 ・上質な舞台芸術を鑑賞する機会を提供する。 ・文化資源を活用して、観光振興に協力する。 		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・格調高い能楽公演の実施を通して、安曇野市名誉市民で観世流能楽師の青木祥二郎(明科出身・重要無形文化財保持者(総合認定))の業績を顕彰。また、安曇野市の芸術文化の向上に寄与する。さらに、観光振興に寄与する。 		
成果目標	来場者数 800 人		
実施場所	明科龍門淵公園	事業期間	令和 5 年 8 月 19 日（土） 午後 7 時 30 分～午後 8 時 30 分
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・能楽の公演（舞囃子：高砂 能：半部 狂言：棒縛 能：善界） ・あづみのこども能楽教室で能楽を学んでいる子どもたちの発表 ・公演のための準備や資金調達 		

【協働の役割分担】

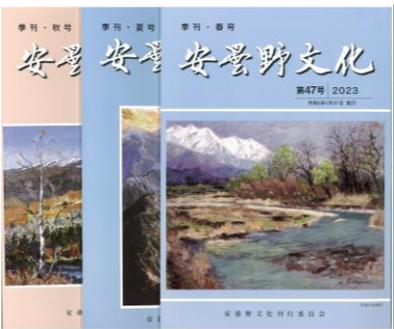
役割 分担	一緒の取組	・薪能の実施、事業のPR
	相手側	・事業についての企画立案・審議・予算執行、会計処理、チケット販売、広告協賛金依頼、当日の運営
	市側	・補助金の交付、施設の貸し出し

【実施結果】

成果目標の達成状況	491 人の入場
協働による効果	<ul style="list-style-type: none"> ・広告協賛金の募集や能楽に関する知識の提供など実行委員が持つノウハウを活用できた。また、動員や企画立案にかかわることで、情報が拡散し薪能の実施の機運が高まった。さらに能楽を学ぶ子どもたちの発表の場を提供できた。
課題・改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な PR により来場者を増やすこと。 ・雨天の際の対応を安全かつ円滑に行うこと。 ・資金の調達をすること。

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野文化刊行事業		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（刊行委員会 市は事務局を担当）		
実施団体	相手側	安曇野文化刊行委員会		
	市側	教育部文化課 文化振興担当		

安曇野文化 47号～49号

【事業の概要】

取組の背景・課題	三郷地域で刊行されていた「三郷文化」が平成23年夏号をもって創刊30年を迎えるにあたり、区切りをつけ、以降「安曇野文化」として刊行することを検討し、平成23年5月に安曇野文化刊行委員会が発足。平成23年秋からの「安曇野文化」創刊に向け「安曇野文化」編集委員会を組織し、平成23年11月30日に創刊号を発行した。		
事業の目的	安曇野の恵まれた文化を広く見つめ、ふるさとの自然と歴史、文芸、教育、産業、生活等の万般の文化に更に光を当て、広く市民に享受していただくと共に、地域文化を創造し大切にすることによって、地域の活性化と一層の安曇野市の文化の発展を期待することを目的に季刊誌「安曇野文化」をつくる。		
成果目標	購読者数…三郷文化最終号 約460名、安曇野文化創刊号 約500名（平成23年12月9日現在）、令和6年1月現在で415名である。購読者数を可能な限り増やしたい。		
実施場所	貞享義民記念館（編集室）	事業期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
事業の概要	「安曇野文化」発刊 第47号(春号)令和5年5月31日 第48号(夏号)令和5年8月31日 第49号(秋号)令和5年11月30日 第50号(冬号)令和6年2月27日 刊行委員会は年度当初に開催し、年4回の発行に合わせて編集委員会を開催する。 編集委員会は執筆者の選定から各号を購読者に届けるまでの実務を行う。購読料と安曇野市からの補助金により事業を行う。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	・刊行委員会、編集委員会の開催・購読者数増に向けての取り組み
	相手側	・各号の原稿依頼と収集、編集作業、発行、配布
	市側	・事務局を担当

【実施結果】

成果目標の達成状況	新規の購読者も獲得しているが、従前の購読者の高齢化により購読停止とほぼ同数であり、全体としての購読者数はほぼ横這い状態である。 地元書店等での販売も行っていることから更なる販路を拡大したい。
協働による効果	三郷地区に限定されていた内容が市全域を扱うようになり、編集委員、執筆者とも市全域から募り、それぞれの地域で活動頂いている。 委員や執筆者の周囲への声掛けにより、購読者が市内全域に広がり、市内外の方々に、安曇野について広く知っていただくことに繋がった。
課題・改善点	印刷費高騰に対する予算措置、購読者増

事業概要紹介シート

【事業の名称等】

事業の名称		第19回あづみの公園早春賦音楽祭	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あづみの公園早春賦音楽祭実行委員会	
	市側	教育部 文化課 文化振興担当	

室内で実施したあづみの公園早春賦音楽祭

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野の自然・風景を活かした国営アルプスあづみの公園において、音楽による社会教育の促進や観光振興を図りたい。		
事業の目的	市民参加による音楽祭を開催し、安曇野に生まれた「早春賦」をはじめ、地域に歌い継がれている歌を通して、地域文化と安曇野の良さを知っていただき、地域の振興に寄与する。		
成果目標	入場者数目標を定めず、実施内容を検討し、開催を実現させる。		
実施場所	国営あづみのアルプス公園 （堀金・穂高地区）	事業期間	令和5年5月14日
事業の概要	会場設営：ステージ設営・運営・撤去、物品準備、来園者の誘導・案内 イベント運営：当日の人員配置、役割分担の調整 学校との調整：出演する学校との調整、バス・楽器手配 広報：広報物による、出演者・ボランティアの募集、開催告知		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	会場設営、当日の運営
	相手側	実行委員会の会議開催、当日までの各団体の連絡調整
	市側	補助金交付による資金援助、運営補助

【実施結果】

成果目標の達成状況	当日は雨天となったが、プログラムと会場の変更を行い、開催を実現した。
協働による効果	協働で取り組むことにより学校関係、市民が参加できる方法を最大限検討できた。
課題・改善点	今後継続して行うため、開催規模の検討や、雨天の場合の綿密な実施計画と代替案の検討が必要。

発行日：令和6年3月
編集・発行：安曇野市役所 市民生活部 地域づくり課
まちづくり推進担当（本庁舎2階4番窓口）
住所：〒399-8281 安曇野市豊科 6000 番地
電話：0263-71-2494（直通） FAX：0263-72-3176